

令和3年度
事業報告書

学校法人 平成医療学園

目 次

I.	法人の概要	1
1.	名称・所在地	1
2.	建学の理念	1
3.	沿革	1
4.	設置する学校	2
5.	学生数	4
(1)	入学定員・入学者数・入学定員充足率	4
(2)	収容定員・在学者数・収容定員充足率	6
(3)	入学者数の推移	8
(4)	専任教員1人当たりの学生数	12
6.	理事・監事・評議員	13
7.	組織	15
8.	教職員数	16
(1)	教職員数	16
(2)	年齢別専任教員数	16
(3)	職階別専任教員数	19
(4)	専任教員・非常勤教員比率	21
II.	事業の概要	24
1.	基本的な方針	24
2.	事業の実施状況	24
(1)	宝塚医療大学	24
(2)	平成医療学園専門学校	29
(3)	横浜医療専門学校	33
(4)	なにわ歯科衛生専門学校	35
(5)	名古屋平成看護医療専門学校	37
(6)	日本総合医療専門学校	39
(7)	和歌山看護専門学校	41
(8)	法人本部	42
3.	理事会・評議員会の開催状況	44
4.	学位又は称号	52
(1)	取得可能な学位又は称号	52
(2)	学位授与数及び授与率	53
5.	学生生徒等納付金	54
6.	卒業及び就職等の状況	59
(1)	卒業者数・就職者数・進学者数等	59
(2)	主な就職先	61
7.	国家試験の受験状況	63
8.	退学者数・除籍者数・留年者数・中退率	65
(1)	退学者数	65
(2)	除籍者数	65
(3)	留年者数	65
(4)	中退率	66
9.	社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数	67
(1)	社会人学生数	67
(2)	留学生数	67
(3)	海外派遣学生数	67
III.	財務の概要	68
1.	学校法人会計基準	68
2.	各科目の説明	68
3.	財政運営	71
4.	資金収支計算書	72
5.	事業活動収支計算書	73
6.	貸借対照表	74
7.	基本金	75
8.	財産目録	76
9.	主な財務比率	79

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人平成医療学園
理事長名	岸野 雅方
所 在 地	〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17
電 話 番 号	06-6375-7773
認 可 年 月 日	平成13年 3月 30日 大阪府知事認可 (準学校法人) 平成22年 10月 29日 文部科学大臣認可 (学校法人)

2 建学の理念

学校法人平成医療学園は、平成12年4月に「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マツサーズ指圧の施術を行っている治療家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念に基づき、厚生省（現：厚生労働省）から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設したことに始まります。

本学園は、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」を目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。

3 沿革

2000(平成12)年 4月	厚生大臣から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設
2001(平成13)年 4月	大阪府知事から準学校法人の認可を受け、併せて、「平成柔道整復専門学院」を「平成医療学園専門学校」に名称変更
2002(平成14)年 4月	「平成医療学園専門学校」に鍼灸師科を設置
2003(平成15)年 4月	「平成スポーツトレーナー専門学校」開設
2005(平成17)年 4月	「横浜医療専門学院」開設
2006(平成18)年 4月	「平成医療学園専門学校」に東洋療法教員養成学科を開設
2007(平成19)年 4月	「横浜医療専門学院」を「横浜医療専門学校」に名称変更
2009(平成21)年 4月	「大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校」を学校法人大阪産業大学から経営移管、校名を「なにわ歯科衛生専門学校」に名称変更
2010(平成22)年 3月	「平成スポーツトレーナー専門学校」廃校
2010(平成22)年 10月	文部科学大臣から「宝塚医療大学」設置認可
2011(平成23)年 4月	「宝塚医療大学」開学
2014(平成26)年 4月	「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2017(平成29)年 10月	教育研究事業に付随する事業として「宝塚医療大学附属介護ステーション」開設
2019(平成31)年 4月	「宝塚医療大学」に留学生別科を開設

	「トライデントスポーツ医療看護専門学校」を学校法人河合塾学園から経営移管、校名を「名古屋平成看護医療専門学校」に名称変更 「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程応用日本語学科を開設 「横浜医療専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2020(令和2)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部及び介護福祉別科を開設 「日本総合医療専門学校」を学校法人日本医科学総合学院との合併により開設
2021(令和3)年 3月	「和歌山看護専門学校」を公益社団法人和歌山県病院協会から経営移管
2022(令和4)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部看護学科及び社会福祉士養成課程（通信制）を開設

4 設置する学校

(令和4年5月1日現在)

学校名	学校長名	所在地・電話番号	認可または届出年月日
宝塚医療大学 保健医療学部 理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科	岸野 雅方	〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷 緑ガ丘1 TEL : 072-736-8600	平成22年10月29日
和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科 看護学科		〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島 2252 TEL : 073-494-5000 〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄 1107-26 TEL : 073-456-5780	令和元年8月27日 令和3年10月22日
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)		〒531-0072 大阪市北区豊崎7-7-17 TEL : 06-6374-6300	平成30年12月26日
介護福祉別科			令和2年3月31日
留学生別科 (東京キャンパス)		〒116-0002 東京都荒川区荒川1-41-10 宝塚医療大学東京キャンパス1号館 TEL : 03-6458-3394	平成30年12月26日
社会福祉士養成課程 (通信制)		〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷 緑ガ丘1 TEL : 072-736-8600	令和4年3月10日

平成医療学園専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 東洋療法教員養成学科 文化・教養専門課程 日本語学科 応用日本語学科	北野 吉廣	〒531-0071 大阪府大阪市北区 中津6-10-15 TEL : 06-6454-1500	平成13年3月30日
横浜医療専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 文化・教養専門課程 日本語学科	岸野 佑宣	〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区 金港町9-12 TEL : 045-440-1750	平成18年10月20日
なにわ歯科衛生専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	古郷 幹彦	〒530-0011 大阪府大阪市北区 大深町2-179 TEL : 06-6375-1400	平成20年12月2日
名古屋平成看護医療専門学校 医療専門課程 看護学科 理学療法学科 柔道整復学科 はり・きゅう学科 文化・教養専門課程 アスレティックトレーナー学科	高木 保子	〒464-0850 愛知県名古屋市千種区 今池1-5-31 TEL : 052-735-1608	平成31年3月4日
日本総合医療専門学校 医療専門課程 柔道整復学科	齋藤 貴司	〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 6-25-13 TEL : 03-5850-3500	令和2年1月16日
和歌山看護専門学校 医療専門課程 看護学科	岸岡 史郎	〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄 1107-26 TEL : 073-456-5780	令和3年3月4日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
理学療法学科	70	68	97.1%
柔道整復学科	60	58	96.7%
鍼灸学科	30	39	130.0%
保健医療学部 小計	160	165	103.1%
リハビリテーション学科	100	107	107.0%
看護学科	50	56	112.0%
和歌山保健医療学部 小計	150	163	108.7%
合 計	310	328	105.8%

(注) 令和4年度から、和歌山保健医療学部に看護学科を開設。

別科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	100	67	67.0%
留学生別科 (東京キャンパス)	100	234	234.0%
介護福祉別科	60	36	60.0%
合 計	260	337	129.6%

(注) 令和3年度に入学できず令和4年度に入学してきた入学者を含む。

社会福祉士養成課程 (通信制)	入学定員	入学者数	入学定員充足率
短期養成課程 (9か月)	60	1	1.7%
一般養成課程 (1年9か月)	140	7	5.0%
合 計	200	8	4.0%

(注) 令和4年度に、社会福祉士養成課程 (通信制) を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	60	57	95.0%
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	30	17	56.7%
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	30	9	30.0%
東洋療法教員養成学科	10	4	40.0%
医療専門課程 小計	130	87	66.9%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	1	5.0%

日本語学科 進学1.5年コース	60	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	60	55	91.7%
応用日本語学科 1年コース	40	17	42.5%
応用日本語学科 2年コース	20	0	0.0%
文化・教養専門課程 小計	220	73	33.2%
合 計	350	160	45.7%

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科 昼間Ⅱ部の募集停止。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和3年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員 充足率
柔道整復師科 昼間	60	61	101.7%
柔道整復師科 夜間	30	22	73.3%
鍼灸師科 昼間	60	55	91.7%
鍼灸師科 夜間	30	21	70.0%
医療専門課程 小計	180	159	88.3%
日本語学科 進学1.5年コース	20	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	20	11	55.0%
文化・教養専門課程 小計	40	11	27.5%
合 計	220	170	77.3%

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科 夜間及び鍼灸師科 夜間の入学定員を60名から30名に変更。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和3年10月入学者を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員 充足率
歯科衛生士学科 昼間	72	83	115.3%
歯科衛生士学科 夜間	36	41	113.9%
合 計	108	124	114.8%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員 充足率
看護学科	40	42	105.0%
理学療法学科	30	29	96.7%
柔道整復学科 昼間部	30	27	90.0%
はり・きゅう学科 昼間部	40	40	100.0%
医療専門課程 小計	140	138	98.6%

アスレティックトレーナー学科	25	19	76.0%
文化・教養専門課程 小計	25	19	76.0%
合 計	165	157	95.2%

(注) 令和4年度から、理学療法学科の入学定員を35名から30名、柔道整復師科を54名から30名、はり・きゅう学科を60名から40名、アスレティックトレーナー学科を50名から25名に変更。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	60	31	51.7%
合 計	60	31	51.7%

(注) 令和4年度から、柔整スポーツ・ケアIコース30名及びIIコース30名を統合し、入学定員を60名へ変更。

(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
理学療法学科	280	256	91.4%
柔道整復学科	240	246	102.5%
鍼灸学科	120	112	93.3%
保健医療学部 小計	640	614	95.9%
リハビリテーション学科	300	298	99.3%
看護学科	50	56	112.0%
和歌山保健医療学部 小計	350	354	101.1%
合 計	990	968	97.8%

(注1) 令和2年度に、和歌山保健医療学部を開設。

(注2) 令和4年度に、和歌山保健医療学部看護学科を開設。

別科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	100	67	67.0%
留学生別科 (東京キャンパス)	100	234	234.0%
介護福祉別科	120	61	50.8%
合 計	320	362	113.1%

社会福祉士養成課程 (通信制)	収容定員	在学者数	収容定員充足率
短期養成課程 (9か月)	60	1	1.7%
一般養成課程 (1年9か月)	140	7	5.0%
合 計	200	8	4.0%

(注) 令和4年度に、社会福祉士養成課程（通信制）を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	180	119	66.1%
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	60	25	41.7%
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	90	64	71.1%
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	90	49	54.4%
東洋療法教員養成学科	20	7	35.0%
医療専門課程 小計	440	264	60.0%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	1	5.0%
日本語学科 進学1.5年コース	120	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	120	55	45.8%
応用日本語学科 1年コース	40	17	42.5%
応用日本語学科 2年コース	40	12	30.0%
文化・教養専門課程 小計	360	85	23.6%
合 計	800	349	43.6%

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科昼間Ⅱ部の募集停止。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの在学者数は令和3年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間	180	172	95.6%
柔道整復師科 夜間	150	53	35.3%
鍼灸師科 昼間	180	145	80.6%
鍼灸師科 夜間	150	45	30.0%
医療専門課程 小計	660	415	62.9%
日本語学科 進学1.5年コース	20	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	40	11	27.5%
文化・教養専門課程 小計	60	11	18.3%
合 計	720	426	59.2%

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科 夜間及び鍼灸師科 夜間の入学定員を60名から30名に変更。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの在学者数は令和3年10月入学者を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
----	------	------	-------------

歯科衛生士学科 昼間	216	229	106.0%
歯科衛生士学科 夜間	108	113	104.6%
合 計	324	342	105.6%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
看護学科	120	111	92.5%
理学療法学科	135	74	54.8%
柔道整復学科 昼間	138	54	39.1%
はり・きゅう学科 昼間	160	101	63.1%
医療専門課程 小計	553	340	61.5%
アスレティックトレーナー学科	75	34	45.3%
文化・教養専門課程 小計	75	34	45.3%
合 計	628	374	59.6%

(注) 令和4年度から、理学療法学科の入学定員を35名から30名、柔道整復師科を54名から30名、はり・きゅう学科を60名から40名、アスレティックトレーナー学科を50名から25名に変更。

◆ 日本総合医科学専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅠコース	120	83	69.2%
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅡコース	60	19	31.7%
合 計	180	102	56.7%

(注) 令和4年度から、柔整スポーツ・ケアⅠコース30名及びⅡコース30名を統合。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
看護学科	100	73	73.0%
合 計	100	73	73.0%

(注) 令和4年度は、募集停止。

(3) 入学者数の推移

◆ 宝塚医療大学

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
理学療法学科	80	77	74	64	68
柔道整復学科	63	72	77	73	58
鍼灸学科	29	35	35	25	39

保健医療学部 小計	172	184	186	162	165
リハビリテーション学科	—	—	102	101	107
看護学科	—	—	—	—	56
和歌山保健医療学部 小計	—	—	102	101	163
合 計	—	—	288	263	328

※ 令和2年度に和歌山保健医療学部を開設。令和4年度に看護学科を開設。

別科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
留学生別科	—	—	0	8※1	301
介護福祉別科	—	—	24	22	36
合 計	—	—	24	30	337

※1 進学1年6ヶ月課程の入学者（令和2年10月入学生）6名を含む。

社会福祉士養成課程（通信制）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
短期養成課程（9か月）	—	—	—	—	1
一般養成課程（1年9か月）	—	—	—	—	7
合 計	—	—	—	—	8

※ 令和4年度に社会福祉士養成課程（通信制）を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
柔道整復師科	53	66	46	39	57
鍼灸師科	47	45	54	41	26
東洋療法教員養成学科	0	0	4	4	4
医療専門課程 小計	100	111	104	84	87
日本語学科	92※1	103※2	29※3	82※4	56※5
応用日本語学科	—	21	26	33	17
文化・教養専門課程 小計	92	124	55	115	73
合 計	192	235	159	199	160

※1 進学1.5年コースの入学者（平成29年10月入学生）29名を含む。

※2 進学1.5年コースの入学者（平成30年10月入学生）33名を含む。

※3 進学1.5年コースの入学者（令和元年10月入学生）29名を掲載。

※4 進学1.5年コースの入学者（令和2年10月入学生）82名を掲載。

※5 進学1.5年コースの入学者（令和3年10月入学生）0名を含む。

◆ 横浜医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
柔道整復師科	71	86	89	75	83
鍼灸師科	46	63	62	71	76
医療専門課程 小計	117	149	151	146	159
日本語学科	—	0	1※1	0※2	11

文化・教養専門課程 小計	0	0	1	0	11
合 計	117	149	152	146	170

※1 進学1.5年コースの入学者（令和元年10月入学生）1名を掲載。

※2 進学1.5年コース（令和2年10月入学生）は募集なし。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
歯科衛生士学科	120	120	120	120	124
合 計	120	120	120	120	124

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
看護学科	—	38	31	40	42
理学療法学科	—	9	14	26	29
柔道整復学科	—	0	9	23	27
はり・きゅう学科	—	9	23	39	40
医療専門課程 小計	—	56	77	128	138
アスレティックトレーナー学科	—	0	9	16	19
文化・教養専門課程 小計	—	0	9	16	19
合 計	—	56	86	144	157

※1 平成30年度は、旧トライデントスポーツ医療看護専門学校による実績。平成30年度は募集停止。

※2 令和2年度から、柔道整復学科及びはり・きゅう学科の夜間部、プロフェッショナルトレーナー学科の廃止。トレーナー学科からアスレティックトレーナー学科へ名称変更。

◆ 日本総合医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	23	30	30	23	31
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIIコース	—	—	22	0	—
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアコース夜間部	9	10	—	—	—
合 計	32	40	52	23	31

※1 平成30年度～令和元年度は、旧日本総合医科学専門学校による実績。

※2 令和2年度から、柔整スポーツ・ケアIIコースの開設、柔整スポーツ・ケアコース夜間部の廃止。

※3 令和4年度から、柔整スポーツ・ケアIコース30名及びIIコース30名を統合。

◆ 和歌山看護専門学校

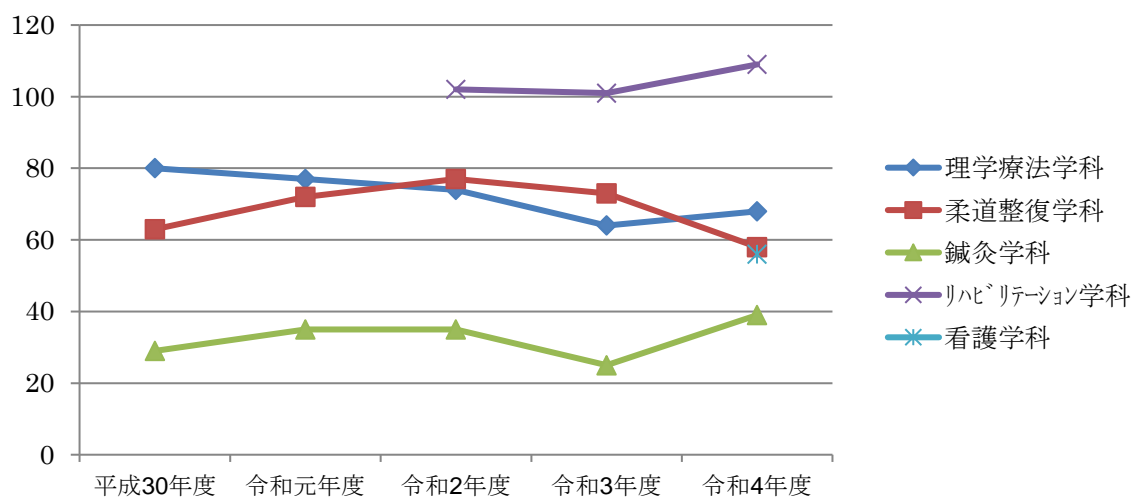
（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
看護学科	47	42	43	36	—
合 計	47	42	43	36	—

※ 平成30年度～令和2年度は、旧和歌山看護専門学校による実績。令和4年度は募集停止。

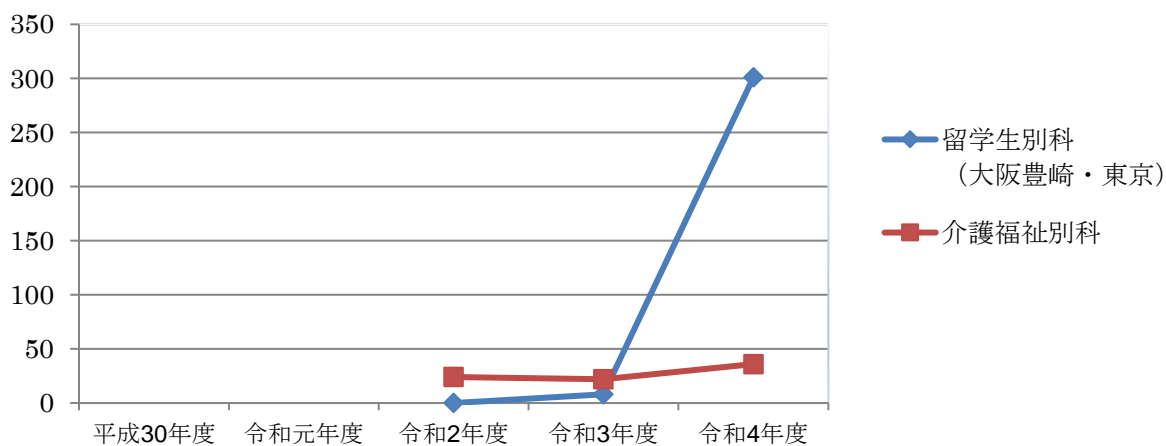
宝塚医療大学 入学者数の推移

(単位：名)



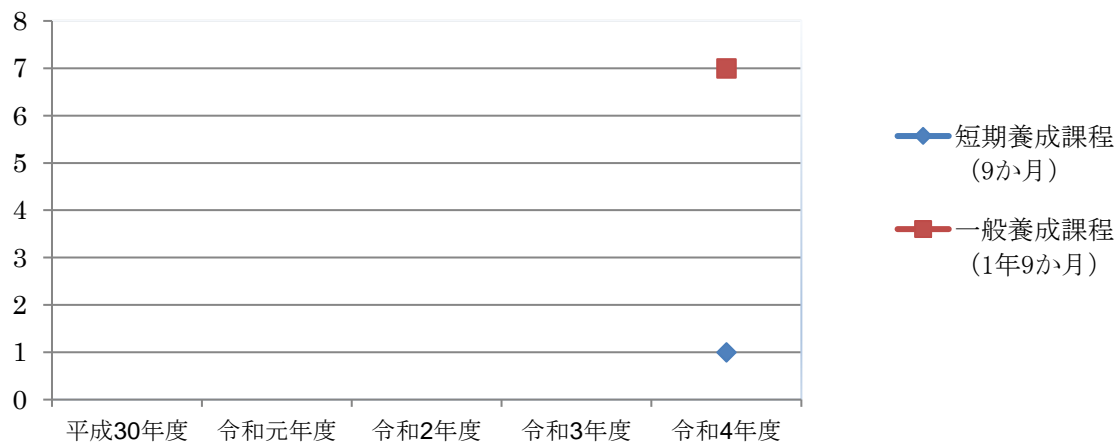
宝塚医療大学 別科 入学者数の推移

(単位：名)



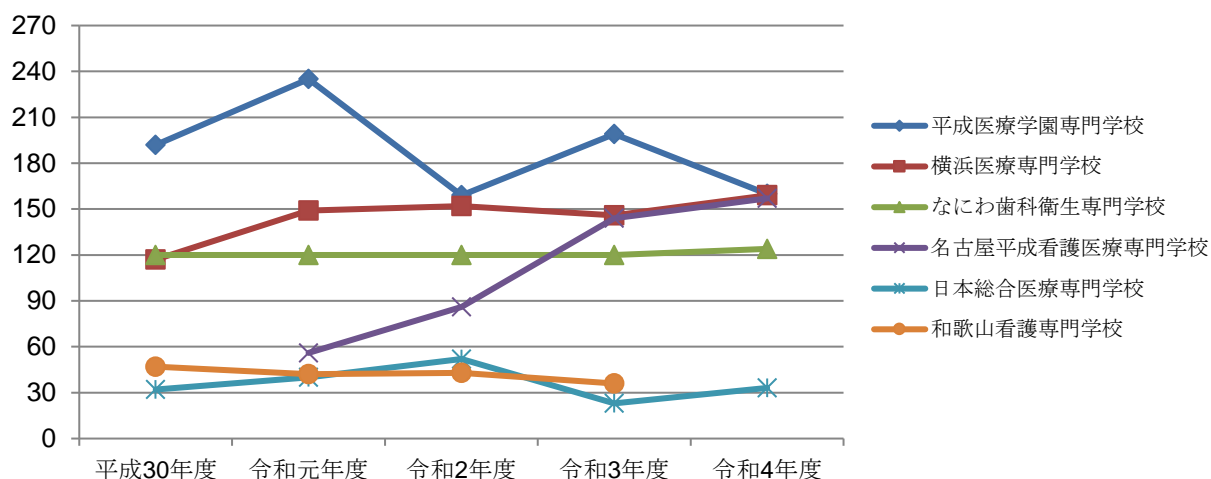
宝塚医療大学 社会福祉士養成課程（通信制） 入学者数の推移

(単位：名)



各専門学校 入学者数の推移

(単位：名)



(4) 専任教員1人当たりの学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
理学療法学科	256	18	14.2
柔道整復学科	246	18	13.7
鍼灸学科	112	15	7.5
保健医療学部	614	51	12.0
リハビリテーション学科	298	21	14.2
看護学科	56	7	8.0
和歌山保健医療学部	354	28	12.6
合計	968	79	12.3

(注1) 鍼灸学科専任教員には学長を含む。

(注2) 専任教員には助手を含む。

別科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	70	2	35.0
留学生別科 (東京キャンパス)	234	1	234.0
介護福祉別科	62	4	15.5
合計	366	7	52.3

社会福祉士養成課程 (通信制)	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
短期養成課程 (9か月)	1	3	0.3
一般養成課程 (1年9か月)	7		2.3
合計	8	3	2.7

◆ 理事・監事（定数：理事 10 人以上 15 人以内、監事 2 人以上 4 人以内）

（令和4年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任 年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
理事長	1号	岸野 雅方※	H3.4.1	常勤	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
常務 理事	4号	岸野 政子※	R3.4.1	常勤	学校法人福寿会理事長
理事	2号	北野 吉廣	R4.4.1	常勤	平成医療学園専門学校校長
	3号	岡田 光司※	R3.4.1	常勤	なにわ歯科衛生専門学校統括長 有限会社アフターメディカル代表取締役会長 学校法人札幌青葉学園理事
		小原 教孝※	R3.4.1	常勤	宝塚医療大学教員・統括長
		中谷 裕之※	R3.4.1	常勤	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
	4号	浅谷 佐智子	R3.4.1	非常勤	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		榊 典夫	R3.4.1	非常勤	宝塚医療大学教員
		塚原 康夫	R3.4.1	非常勤	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
		土江 直一	R4.4.1	非常勤	公益社団法人全国柔整鍼灸協会監事 学校法人福寿会理事
		吉田 洪先※	R3.4.1	常勤	横浜医療専門学校教員・統括長
	監事	—	吉田 明代	R3.4.1	常勤
—		永井 隆世	R4.3.1	非常勤	社会福祉法人山の子会監事

（注）※印は常任理事会理事。

理事の選任（寄附行為第7条（抄））

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人が設置する大学の学長
- (2) この法人が設置する専門学校の校長のうちから理事会において選任した者 1人
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者 2人以上
- (4) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 6人以上

◆ 評議員（定数：23 人以上 31 人以内）

（令和4年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任年月日	主な現職等
評議員	第1号	内野 勝郎	R3.4.1	宝塚医療大学教員
		小原 教孝	R3.4.1	宝塚医療大学教員・統括長
		岸野 佑宣	R3.4.1	横浜医療専門学校校長
		北野 吉廣	R3.4.1	平成医療学園専門学校校長
		高木 保子	R3.4.1	名古屋平成看護医療専門学校校長 平成医療学園専門学校統括長補佐

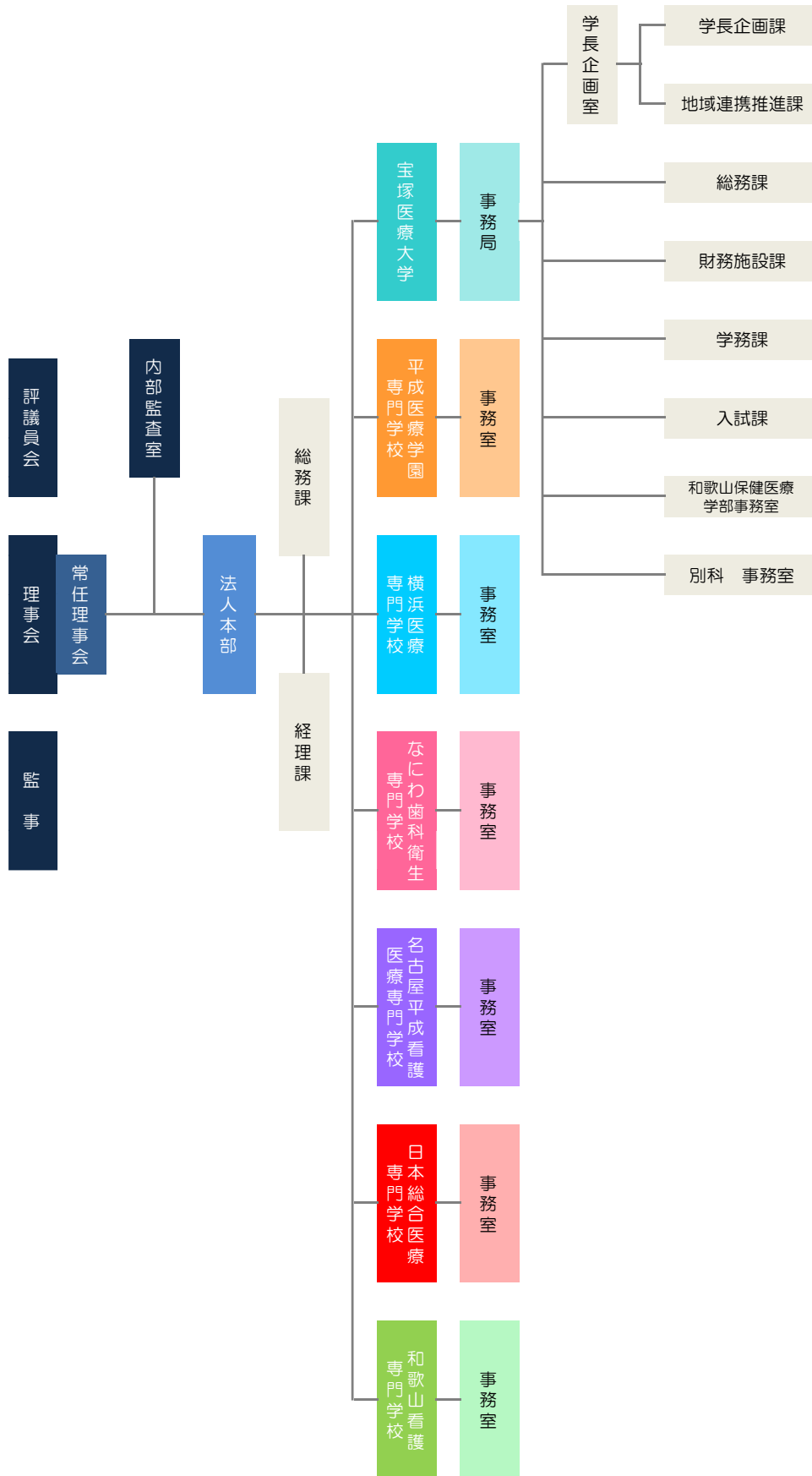
	第2号	岸野 庸平	R3.4.1	学校法人札幌青葉学園理事 札幌青葉鍼灸柔整専門学校副校長
		清水 公美子	R3.4.1	しみず鍼灸院
		竹本 晋史	R3.4.1	平成医療学園専門学校教員
		西口 佐智子	R3.4.1	株式会社方円代表取締役 平成医療学園専門学校教員
		松本 尚純	R3.4.1	まつもと整骨院 まつもと鍼灸院 平成医療学園専門学校教員
	第3号	浅谷 佐智子	R3.4.1	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		岡田 光司	R3.4.1	なにわ歯科衛生専門学校統括長 有限会社アフターメディカル代表取締役会長 学校法人札幌青葉学園理事
		勝浦 政夫	R3.4.1	勝浦鍼灸院 勝浦接骨院 平成医療学園専門学校教員
		岸野 政子	R3.4.1	学校法人福寿会理事長
		岸野 雅方	R3.4.1	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
		榊 典夫	R3.4.1	宝塚医療大学教員
		佐原 道啓	R3.4.1	佐原整骨院 平成医療学園専門学校教員
		塚原 康夫	R3.4.1	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
		中谷 裕之	R3.4.1	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
		西尾 頼政	R3.4.1	ミツワ電機工業株式会社
		林 康蔵	R3.4.1	平成医療学園専門学校教員 林鍼灸・接骨院 経営
		平賀 修司	R3.4.1	学校法人平成医療学園職員
		吉井 保	R3.12.8	
		吉田 洪先	R3.4.1	横浜医療専門学校教員・統括長

評議員の選任（寄附行為第26条（抄））

第26条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の職員のうちから評議員会において選任した者 5人
- (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上のものの中から理事会において選任した者 5人
- (3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 13人以上

(令和4年5月1日現在)



8 教職員数

(1) 教職員数

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	本務者		兼務者	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	20	0	3
宝塚医療大学保健医療学部	51	27	22	23
宝塚医療大学和歌山保健医療学部	28	10	23	1
宝塚医療大学留学生別科(大阪豊崎キャンパス)	2	0	6	1
宝塚医療大学留学生別科(東京キャンパス)	1	0	0	0
宝塚医療大学介護福祉別科	4	0	4	0
宝塚医療大学社会福祉士養成課程	3	0	0	0
平成医療学園専門学校	26	21	54	3
横浜医療専門学校	26	16	21	2
なにわ歯科衛生専門学校	18	11	93	1
名古屋平成看護医療専門学校	37	13	82	7
日本総合医療専門学校	9	10	13	0
和歌山看護専門学校	7	2	32	0
宝塚医療大学附属介護ステーション	1	1	0	0
合 計	213	131	350	41

(注) 専任教員には助手を含む。

(2) 年齢別専任教員数

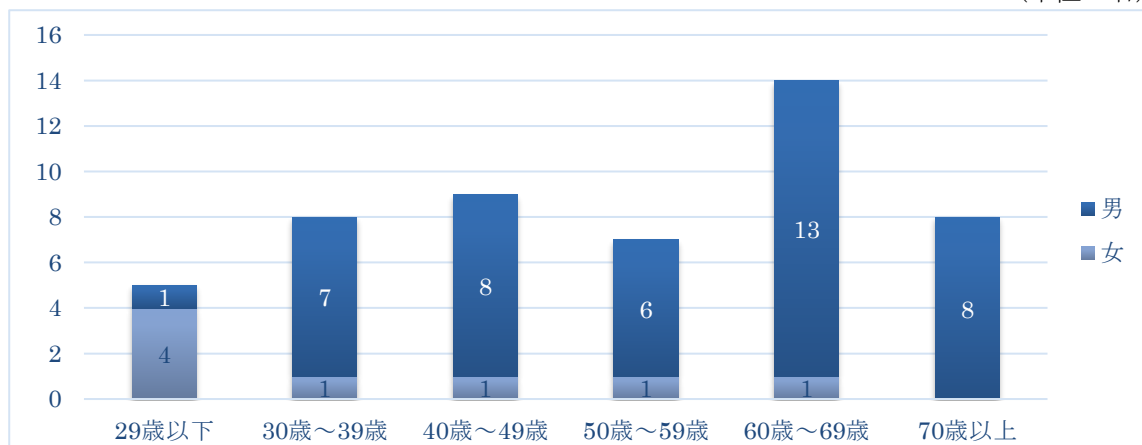
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	1	7	8	6	13	8	43
女	4	1	1	1	1	0	8
合 計	5	8	9	7	14	8	51

年齢別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



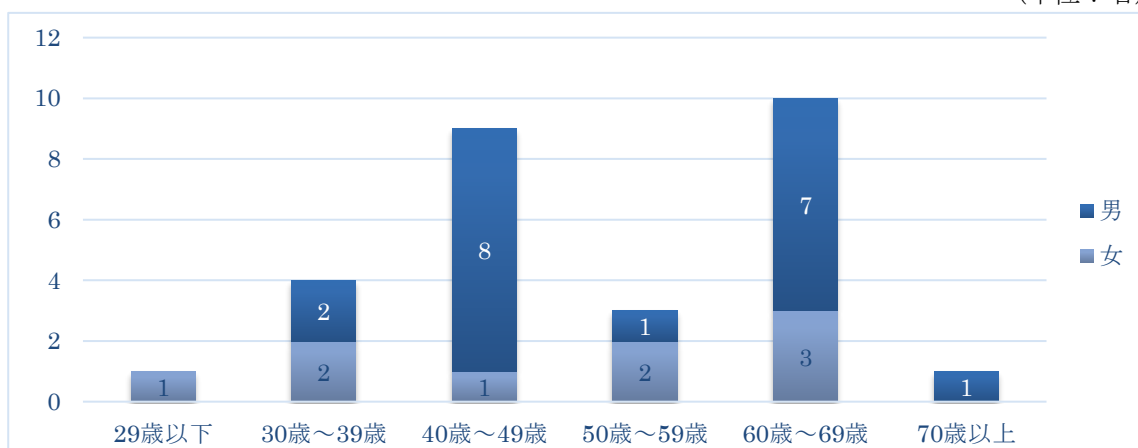
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	2	8	1	7	1	19
女	1	2	1	2	3	0	9
合計	1	4	9	3	10	1	28

年齢別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



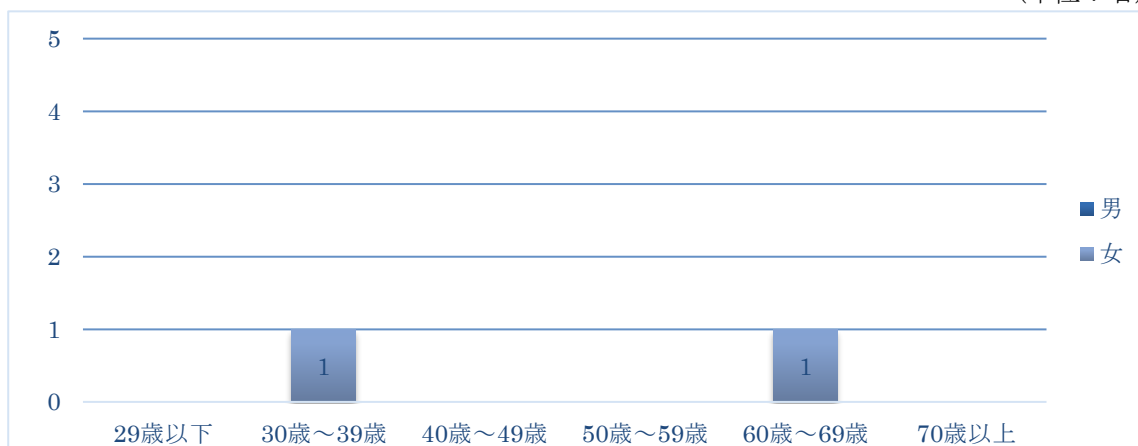
◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	0	0	1	0	2
合計	0	1	0	0	1	0	2

年齢別留学生別科 (大阪豊崎キャンパス) 専任教員数

(単位：名)



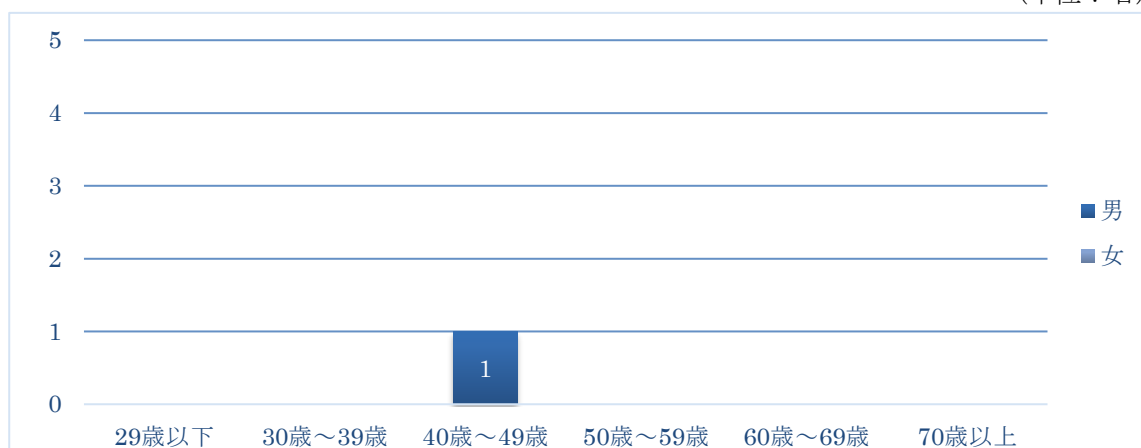
◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和4年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	0	0	0	1

年齢別留学生別科（東京キャンパス）専任教員数

（単位：名）



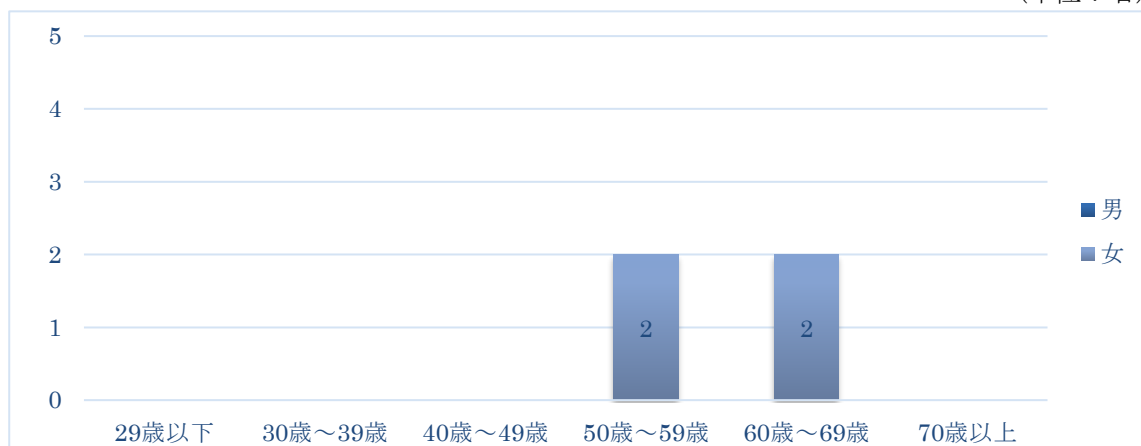
◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

（令和4年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	2	2	0	4
合計	0	0	0	2	2	0	4

年齢別介護福祉別科専任教員数

（単位：名）



◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

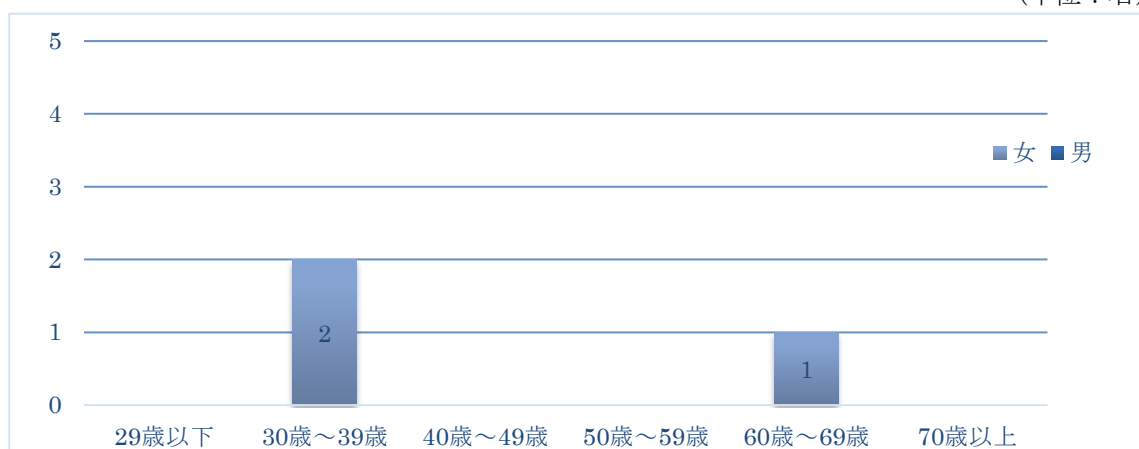
（令和4年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0

女	0	2	0	0	1	0	3
合計	0	2	0	0	1	0	3

年齢別社会福祉士養成課程専任教員数

(単位：名)



(3) 職階別専任教員数

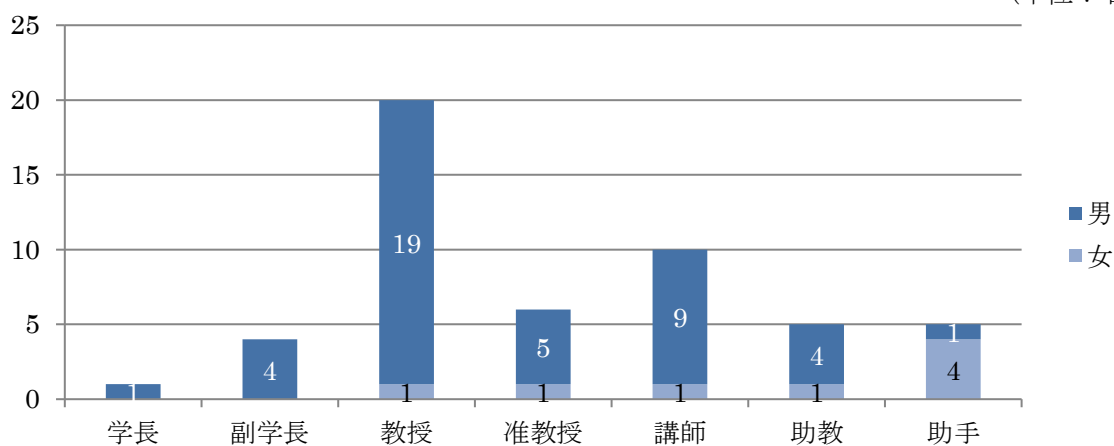
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	1	4	19	5	9	4	1	43
女	0	0	1	1	1	1	4	8
合計	1	4	20	6	10	5	5	51

職階別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



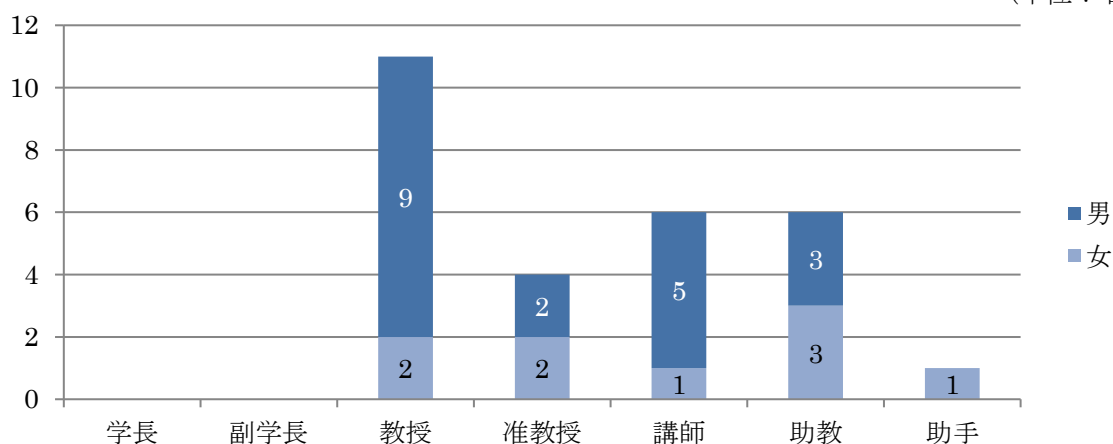
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	0	0	9	2	5	3	0	19
女	0	0	2	2	1	3	1	9
合計	0	0	11	4	6	6	1	28

職階別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)

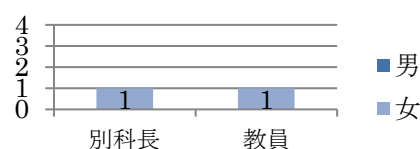


◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	0	0
女	1	1	2
合計	1	1	2

職階別留学生別科(大阪豊崎キャンパス)専任教員数 (単位：名)

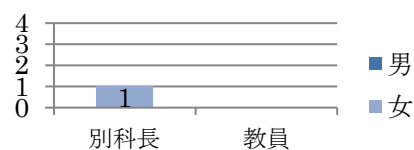


◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (東京キャンパス)

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	1	1
女	0	0	0
合計	0	1	1

職階別留学生別科 (東京キャンパス) 専任教員数 (単位：名)

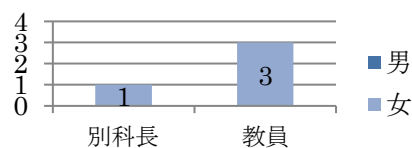


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	0	0
女	1	3	4
合計	1	3	4

職階別介護福祉別科専任教員数 (単位：名)

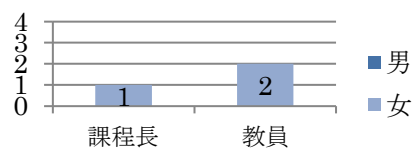


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	課程長	教員	計
男	0	0	0
女	1	2	3
合計	1	2	3

職階別社会福祉士養成課程専任教員数 (単位：名)



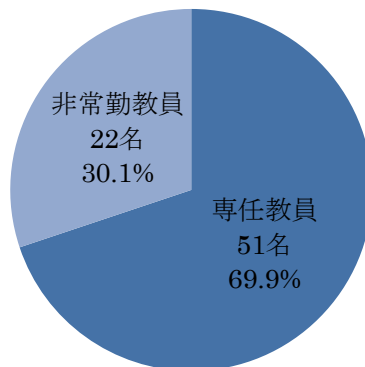
(4) 専任教員・非常勤教員比率

◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	51	69.9%
非常勤教員	22	30.1%
合 計	73	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

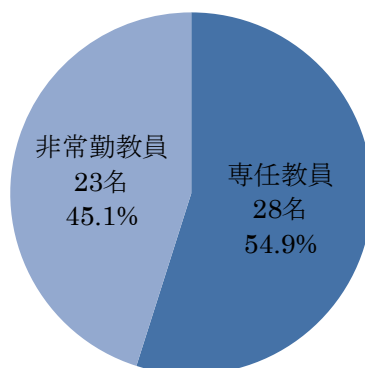


◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	28	54.9%
非常勤教員	23	45.1%
合 計	51	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

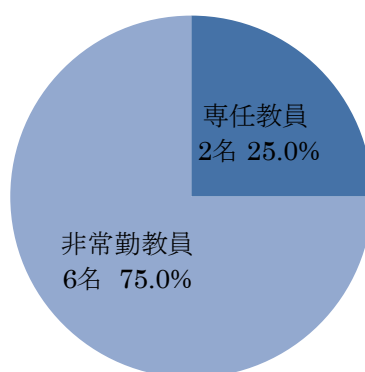


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪豊崎キャンパス）

（令和4年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	2	25.0%
非常勤教員	6	75.0%
合 計	8	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

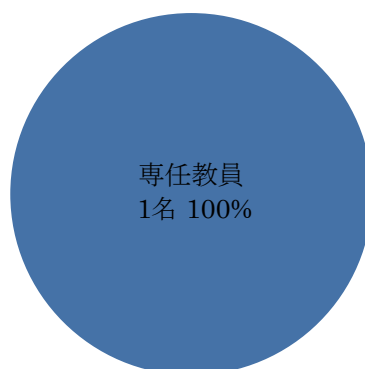


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和4年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	1	100.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	1	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

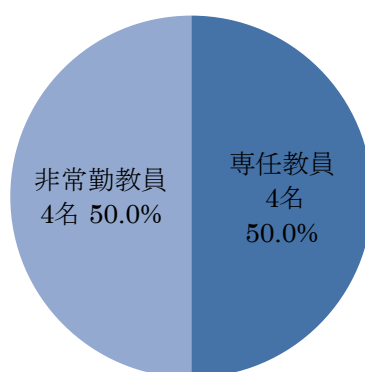


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	4	50.0%
非常勤教員	4	50.0%
合 計	8	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

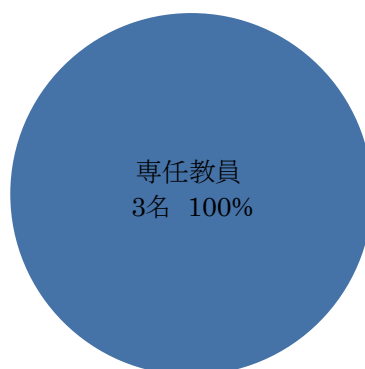


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

(令和4年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	3	100.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	3	100.0%

専任教員・非常勤教員比率



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

(1) 宝塚医療大学

① 入学者の確保

令和4年度学生募集においては、保健医療学部、和歌山保健医療学部、留学生別科及び介護福祉別科、社会福祉士養成課程で以下の通り募集活動を実施しました。

【保健医療学部、和歌山保健医療学部】

本学での学びの特色を、ホームページの他、進学情報誌・サイト（媒体）により広く告知しましたが、資料請求数は4,400件弱と前年（5,200件弱）を下回りました。

オープンキャンパスは、コロナ禍の状況が令和2年度より若干緩和されたことから、実施回数を増やしたので、参加者も増加しました。高校生等（同伴者を含まない）の参加者数（のべ）は、宝塚キャンパスで418人（対前年119%、実施回数は9回）、和歌山キャンパスで538人（対前年164%、実施回数を前年の8回から10回に増設）という結果でした。また令和2年度より始めた、Web上でのバーチャルオープンキャンパスページや、ホームページ上でのキャンパスツアービデオ、校舎の360度VRなどが好評であったことから、定期的なブログ掲載などWebページの充実を図りました。

高校訪問は、学校推薦型選抜（指定校推薦）の学生募集に寄与していますが、コロナ禍のため自粛せざるを得ない時期があり、思ったように活動ができませんでした。宝塚キャンパスは京阪神、中四国を、和歌山キャンパスは和歌山県、中四国を重点エリアとして、京阪神で443回、中四国で38回、和歌山県で47回訪問しました。その他の地域を含め、総訪問数は554回となり、対前年113.6%（新設の看護学科は含まず）となっています。

これらの取組の結果、令和4年度の入学者数は、宝塚キャンパスで保健医療学部 理学療法学科68名（充足率97.1%）、柔道整復学科58名（同96.7%）、鍼灸学科39名（同130.0%）、学部全体で165名（同103.1%）、和歌山キャンパスで和歌山保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻64名（充足率106.7%）、作業療法学専攻43名（同107.5%）、新設の看護学科56名（112.0%）、学部全体で163名（同108.7%）となりました。

【留学生別科、介護福祉別科】

留学生別科及び介護福祉別科については、外国人留学生の受入れを中心とした広報活動を実施しました。コロナ禍により海外の現地日本語学校等での説明会はできませんでしたが、オンラインで現地学生とコンタクトをとりました。また国内においては、介護留学生支援企業との提携、日本語学校へのアプローチを積極的に行い、国内留学生向けのオープンキャンパスを21回実施し（個別対応を含む）参加者数は57人となりました。

これらの取組の結果、令和4年度の入学者数は、留学生別科（大阪豊崎キャンパス）67名（充足率67.0%）、留学生別科（東京キャンパス）234名（充足率234.0%）、介護福祉別科（大阪豊

崎キャンパス) 36名 (充足率60.0%) となりました。コロナ禍の状況で、特に留学生別科では入国制限の影響を強く受けていますが、昨今入国制限が大きく緩和され、これまで入国が叶わなかった入学希望者が多数入学したことから、入学者数は令和3年度よりも大きく増加しました。

【社会福祉士養成課程】

令和4年度より開講となる社会福祉士養成課程については、通信制ということ、また受験要件が設けられていることから、インターネットを中心とした広報活動を行いました。広報開始時期が11月からとなったため浸透に時間が掛ったこともあり、令和4年度は一般養成課程7名 (充足率5.0%)、短期養成課程1名 (同1.7%) となりました。

② 教育の充実

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第5波・第6波により、兵庫県にまん延防止等重点措置が行われるなど、引き続き楽観できない状況が継続しましたが、令和2年度からの感染予防対策を継続して行うとともに、授業については、可能な限り対面での授業が行えるよう努めました。学内における罹患者は発生しましたが、クラスターには至らず、教育を継続することができました。

保健医療学部では、令和2年度から継続して検討してきた初年次教育に関する検討を経て、理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科での導入教育に関する新たな授業科目を追加する教育課程変更に関する申請を行い、認可されました。令和4年度入学生からは、新たな教育課程による授業を実施します。

和歌山保健医療学部では、2期生の受入れを行いました。令和3年度に看護学科設置の認可を受け、令和4年度からは、リハビリテーション学科と看護学科の2学科での教育がスタートします。

留学生別科においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本学別科に合格しながら入国できない状態が続きました。こうした学生に対しては入学時期を柔軟に対応するなどの対策を行うとともに、オンラインでも面接等を実施しました。

介護福祉別科では、2期生の受入れを行いました。大学と連携しながら新型コロナウイルス感染症の感染対策を行い、授業を実施しました。また、介護福祉別科では初めての修了者を送り出し、1期生21名全員が希望する進路に就くことができました。令和4年度も継続して介護専門職の養成に努めます。

開学以来、継続して実施している授業評価アンケートについても、オンライン授業に関する設問を継続して実施し、オンライン授業の教育効果について確認するとともに、教員にフィードバックを行いました。これらの取組を通して教員の教育力向上を図るとともに、授業評価アンケートの結果をわかりやすくまとめ、令和元年度の前・後期の授業評価アンケート全体の集計結果を教育情報として公表しました。

令和3年度には、保健医療学部において新たにメンター(チューター)制度を導入しました。この制度により、各教員が複数の学生を担当し、相談・指導等に責任を持って当たる体制を作りました。一層の学生指導の充実を図るとともに、中途退学の減少を目的として導入しました。

これに伴い、毎年教員から提出を受けている「個人業績申請書」の様式を変更し、メンターとしての活動も教員評価の項目に加えることとしました。

令和2年度に設置した学修支援センターにおいては、令和3年度も1年次生を対象としたセミナーの実施を行うとともに、ピアサポート制度を実施し、先輩学生が後輩学生を指導することで学修や大学生活の不安を解消するための一助となっています。

③ 研究の充実

全学的な研究推進体制の下で、保健医療学部においては、統合医療及び予防医学に関する研

究並びに基礎医学分野の科学的研究を実施し、「理学療法学」に関する研究内容の充実を図りました。「柔道整復学」及び「鍼灸学」については、エビデンスを構築し、附属治療院の充実を図り、特色ある研究の推進に努めました。また、令和3年度から、新たに柔道整復・鍼灸治療院の電子カルテ化、受領委任払い制度における電子化に関する対応方法を新たに開発するべく、全国柔整鍼灸協同組合と共同してプロジェクトを立ち上げることにしました。現在の業界における課題の確認、産学連携協定の実施に向けた検討及びプロジェクトメンバーの選出などを行いました。

さらに、学内において研究成果発表会を定期的実施するとともに、宝塚医療大学紀要第8号を発行しました。また、「科学研究費補助金」等の公的研究費を獲得することを研究者個々の使命として位置づけて研究推進を図るとともに、研究推進委員会においてブラッシュアップを図りました。

学長裁量経費の新たな活用として、科学研究費助成事業に不採択であった研究を対象に、学内で選考を行い、大学として研究を支援する取組を行い、令和3年度は2名の教員に対して研究費の助成を行いました。

和歌山保健医療学部では、地域でのリハビリテーション関連専門職の教育、研究を行うために、和歌山県立医科大学医学部と「高度リハビリテーション医療・医学教育・研究講座」を設置しました。具体的な活動について、今後更に協議を進めます。

④ 国家試験対策の充実

令和2年度の試験結果を踏まえ、各学科に設けた国家試験対策部会等において一層の教育内容の充実を図りました。具体的には、早期からの対策講義の継続的実施及び業者による模擬試験や姉妹校との合同模擬試験を計画的に実施し、試験結果の詳細な分析により、学生の弱点を把握し個々の学生の状況に合わせた綿密な指導を行い、学生の学習意欲の向上に努め国家試験合格率の向上を目指しました。これらの取組の結果、保健医療学部柔道整復学科及び鍼灸学科では、令和3年度の新卒者の国家試験合格率が全国平均を上回りました。

また、国家試験に合格できなかった卒業生に対しては、国家試験対策を行う「宝塚塾」を中心に継続的な支援を行い、入学当初の目標を達成できるよう卒業後の国家試験対策の体制強化に努めました。理学療法学科においては、国家試験対策不合格者対応の担当者を選定し、1年間を通して既卒者の国家試験対策を支援することとしました。

⑤ 就職支援の充実

キャリア開発センターでは、医療人としての動機形成がなされるよう入学時に「大学生生活スタートアップマナー講座」を実施しています。また、継続して医療人としてふさわしい立ち居振る舞いができるよう2年次には「実習前医療接遇マナー講座（基礎編）」、3年次には「実習前医療接遇マナー講座（実践編）」を行うなど、医療人として学生の自覚と成長を促しながら、社会に通用する宝塚医療大学のブランド力の向上に努めています。

また、キャリア開発センターが作成した「学生自身が記入するキャリアシート」を用いて、学生個々人の職業意識の向上を図り、有意義な学生生活を過ごせるよう入学時から教員による支援を行っています。この支援に並行して、1年次に適性検査を実施することで個々人の能力と適性を把握しています。この適性検査は、4年次への進級の際に全員がキャリア開発センター担当によるキャリア面談を実施する際にも、学生にとってより望ましい進路選択が支援できるようにしています。

さらにキャリア開発センターでは、求人情報の検索システムの構築や求人情報の閲覧、進路についての個別相談、（本学所定の）履歴書、エントリーシートの添削や書き方の支援、面接練習を希望する学生には模擬面接の実施など就職試験対策も行なっています。

また、就職情報提供の一環として本学独自の「学内就職説明会」（本年はオンラインで実施）

を理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科で開催しています。病院、クリニック、トレーニングジム、介護福祉施設、治療院等の医療人や人事担当者、経営者を招いて本学の学生と面談できる機会を設けています。理学療法学科では9月に4日間にわたり、「オンライン就職説明会」(106施設の参加)を実施し、柔道整復学科及び鍼灸学科では6月に「オンライン就職説明会」(56施設の参加)を実施しました。また、理学療法学科では長期臨床実習前の春期に、「公立の医療施設の就職説明会」を個別に実施し、就職先のレベルアップと多様化を図っています。さらに長期臨床実習前の4年生に向け、卒業生有志による「on-line先輩訪問と称した懇談会」を実施しました。卒業生は、臨床での現体験や自身の臨床実習、国家試験勉強法や、就職活動などの体験を語り、最終学年を迎えた学生が臨床実習への心構え、国家試験勉強の方法、進路選択や就職活動の参考になるよう自覚を促す取組を行っています。柔道整復学科及び鍼灸学科では、令和元年度より2年間実施した「本学卒業生との懇談会」はコロナ禍により、残念ながら延期していますが、令和4年度は感染症対策を講じながら実施する予定です。

このようなキャリア支援への取組全般に対して、各学科から任命されたキャリア開発センター学生委員(4年生)が学内就職説明会開催や運営のサポートなど、上記業務のサポートを行いながら、就業意欲を全学生に波及させるという役割も担っています。

⑥ 社会貢献の充実

令和3年度は、毎年実施している兵庫県川西市との包括的な連携協定に基づくスポーツ大会へのボランティア派遣や地域自治会の講習会等について、いずれも新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止されることとなりました。

本学において毎年実施している地域住民を対象とした健康増進や生活習慣病対策など医療系大学の特色を活かした公開講座についても同様に開催を見合わせました。

一方で、高大連携事業の一環として、川西明峰高校3年生を対象とした「生涯スポーツ」の授業を、令和2年度から3回増加して全12回本学にて実施しました。まだ、同校における総合的な学習の時間「明峰の学び」については、令和2年度は中止しましたが、令和3年度は全4回実施しました。

附属治療院においては、近隣住民の健康治療に貢献するとともに附属介護ステーションでは、機能訓練に特化した地域密着型通所介護事業を行い、地域福祉に貢献しました。また、附属保育園では、企業主導型保育園として、地域の待機児童の減少に貢献しています。これら附属施設においては、感染対策を充分に行った上で、事業の継続に重点をおいて運営を行いました。

また、楽天ヴィッセル神戸株式会社との提携に基づくサッカーのクラブチームである「ヴィッセル神戸伊丹U-15」の本学グラウンドでの夜間練習については安全に配慮しながら適宜実施しました。令和3年度は1年を通して安全に配慮しながら段階的に大学施設の解放を行いました。

和歌山保健医療学部では、継続して旧中之島保育園の利活用について、和歌山市、近隣自治会と協議を重ね中之島キャンパスにおいてワークショップを実施しました。また、看護学科の設置に伴い、新たな社会貢献について和歌山市を協議し、方向性を決定しました。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和元年に策定した中期目標の2年目に当たる令和3年度は、「使命・目的等」、「学生」、「教育課程」、「教員・職員」、「内部質保証」の各項目について計画実施に向けた準備を行う予定でした。新学科の設置計画の推進などがあり、各種ポリシーについては、新学科の設置計画に合わせて検討しました。一方で一部の計画については未着手の項目があります。

新規事業の実施などに伴い、適宜見直しを行います。

⑧ 企業主導型保育園の運営

平成29年度に開設した企業主導型保育園の運営に関して、令和3年度は、新型コロナウイルス

ス感染症の感染の拡大（第5波、第6波）に伴う影響がありましたが、徐々に利用者が増加し、年間利用者では令和2年度を上回ることができました。

社会的な緊張が高まっていた中で、地域の待機児童問題の解決の一助としての附属保育園が一定の機能を果たせたと考えます。

⑨ 宝塚医療大学附属介護ステーションの運営

令和3年度においては令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う利用者への感染防止を第一義に、附属介護ステーションの運営に努めました。

大阪市の指示に従い、利用者及び同居家族等の日常的に接する方には、感染リスクが高い場所への外出や移動を自粛していただくようお願いし、また、利用者に少しでも症状がある場合は、早めに医療機関を受診し検査を受けていただくことをお願いしながら運営しました。

そのため、利用者を対象としたイベントは自粛のため少なくなりましたが、緊急事態宣言が再発出された中でも利用者のご要望に沿うべく、また、満足の行くサービスの提供を心がけながら、消毒・換気・手洗い・うがい等を徹底し感染防止に努めながらも地道に営業を続けました。

なお、このようなコロナ禍の状況ではありましたが、令和2年度と同様に3回程度、姉妹校の臨床実習生の受入れなど教育分野での協力も行い、大学附属施設としての機能を果たしました。

⑩ 和歌山保健医療学部について

新学部設置に伴う履行状況等調査について、令和3年5月に報告書を文部科学省に提出し、令和4年3月に文部科学省のホームページで履行状況等調査の結果について公表され、本学は、特に指摘事項は付されませんでした。

また、和歌山保健医療学部では、令和3年3月に申請した看護学科の設置について、令和3年10月に文部科学大臣からの認可を受け、令和4年4月から第1期生の受入れを行っています。

いずれの学科においても、適切に設置計画を履行する計画です。

⑪ 留学生別科・介護福祉別科について

留学生別科については、令和2年度から大阪豊崎キャンパスで学生を受け入れ、東京キャンパスでは令和3年度からの学生受け入れを始めました。2つの拠点での学生確保を行うため、外部のエージェント等を活用しながら活動を行いました。

留学生別科への入学を希望する者は一定数ありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限があり、合格後も入国できない状況が続きました。入学希望者及び合格者に対しては、オンライン会議のシステム等を利用して、面接や面談を行いました。このような状況を鑑み、入学時期については、柔軟に対応できるよう配慮することとしています。

介護福祉別科については、令和2年度から新入生の受入れを始めています。令和3年度は、40名の入学が予定され、徐々に在学学生数が増加しています。第1期生は21名が令和3年3月で課程を修了しました。

⑫ 新学部・新学科の設置計画について

新学科等の設置計画に関しては、和歌山保健医療学部看護学科については令和3年3月に文部科学省に設置認可申請書を提出し、令和3年10月に認可を受けました。社会福祉士養成課程（通信制）一般課程・短期課程に関しては、一部計画を変更し、令和3年3月に近畿厚生局に養成施設の設置計画書を提出し、令和4年3月に認可を受けました。

また、並行して計画を進めていた観光学部観光学科（仮称）の新学部については、宮古島市との連携について、協議を進め、地元への説明会を実施するなど、市との連携に基づく新学部等の設置に向けて協議を進め、令和4年3月に設置認可申請書を提出しました。

保健医療学部口腔保健学科（仮称）については、使用する校舎を宝塚キャンパスと大阪中津キャンパスに変更し、令和4年3月に文部科学省に学則変更に関する申請書を提出しました。令和4年4月及び5月に、設置届出及び養成校指定規則に基づく申請書をそれぞれ提出します。

⑬ 施設設備の整備

令和3年度は、和歌山保健医療学部看護学科の設置計画に基づき、西庄キャンパスに看護学科で使用する研究室棟を新たに建築し、これに関連する機器備品を納入しました。合わせて看護学科で使用する教育研究用機器備品、図書等の納入を行いました。

宝塚キャンパスでは、屋内体育施設（柔道場）に空調機器を導入したほか、キャンパス内の直管型蛍光灯をLEDに変更するなど、既存学部における環境整備を行いました。このほか、宝塚キャンパスにおける学内無線LANの接続速度向上のため、光回線の入替えを行いました。

⑭ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

全国柔整鍼灸協同組合とは、令和3年度から、柔道整復、鍼灸の治療院における電子カルテ、受領委任払い制度の電子化への対応に関する対応方法を新たに開発するべく、共同してプロジェクトを立ち上げました。全国柔整鍼灸協同組合及び関連企業を含め、今後産学連携の協定の締結を計画しています。

また、社会福祉士養成課程の設置にあたり、全国柔整鍼灸協同組合の施設をスクーリング会場として使用したことに加え、全国の会員向け案内に本学リーフレットを同封するなど、広報活動についても協力を得ました。

⑮ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら継続した教育を提供しました。

令和2年度のような、通学の自粛は行わず、対面授業を中心に講義・実技授業を実施するとともに、一部の科目についてはオンラインでの授業を実施しました。令和2年度に作成した感染予防に関するマニュアルに準じて、学生・教職員の検温、体調管理を徹底するとともに、罹患した場合の対応についても重ねて周知を行いました。

保健医療学部の各学科の臨床実習に関しては、実習の実施が困難な状況がありましたが、各実習施設の協力を得ながら可能な限り学外での臨床実習の機会を確保するよう努め、学生の単位修得、卒業判定に影響が出ないよう配慮しました。

附属図書館、食堂においては、密集状態にならないよう、席を間引くほか、パーティションの設置を行うなどの対策を継続して行いました。また、学生・教職員の罹患者については、速やかに学内で情報を共有するとともに、保健所等の指導に従い適切な対応を行いました。

(2) 平成医療学園専門学校

① 入学者の確保

本校の入学者は大阪・兵庫・京滋エリアが多く、令和3年度においては、そのエリアの高等学校への訪問を強化し、進路指導担当教諭及び担任教諭、各クラブ顧問等の本校認知度向上に努めました。また、校内ガイダンスや会場ガイダンスへ積極的に参加し、直接高校生へ本校の特長や教育内容を伝えるとともに、業界及び本校の認知度向上に努めました。

コロナ禍の中、来校者が令和2年度から減少傾向にあったオープンキャンパスでは、参加者に対して、本校の特長を活かしたスポーツトレーナーや美容といった分野を主なテーマに、実技体験を実施しました。その他、体験授業や入学試験説明、AO対策講座、保護者向け説明会を実施しました。また、オープンキャンパスの他に、個別相談会や平日の学費奨学金セミナー、

進路セミナー等を開催し、受験検討者との接触機会を増やし、参加者の出願率向上を図りました。社会人に対しては、柔道整復師、鍼灸師及びスポーツトレーナーといった職業について、自分の将来像をより感じられるような内容の各種学内イベントやセミナー等を開催しました。

文化・教養専門課程日本語学科については、令和2年度に引き続き、海外の現地での広報活動及び面接の実施ができませんでした。また、出願後に在留資格認定証明書が交付されたとしても、いつ来日できるのかがわからない状況もあり、入学希望者が激減しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための水際対策により、外国人の日本への入国が制限された影響で、令和3年度の4月期生及び10月期生の入学者数は0名でした。

応用日本語学科については、学校説明会の開催や個別対応を行いました。が、そもそも外国人の入国制限の影響で、国内の日本語学校に在籍する留学生が少なく、本校の日本語学科の在校生で応用日本語学科への内部進学を希望する学生以外の入学希望者はほぼいませんでした。

② 教育の充実

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学外実習を充分に行うことができませんでした。例年の実習の場であるサッカー大会も縮小開催となりましたが、柔道整復師科では、そのようなスポーツ現場での臨床実習にて、1年生から3年生を縦割りにしたチームを編成し、チームごとに実習を行いました。下級生は上級生を見て学び、上級生は下級生を指導することで自身の成長に繋げることができました。実習については、令和2年度に外部の方々から評価いただいた新型コロナウイルス感染症防止対策を引き続き徹底し、実施しました。

鍼灸師科では、附属施術所を中心に、外部の施術所にも協力を得て、少人数制で見学を中心とした実習を行いました。また、実技授業も新型コロナウイルス感染症防止対策を充分に行った上で、対面で行いました。

1年次の基礎医学は3年間を通して学ぶ科目でもあり、苦手とする学生が多いことから、そのフォローのためにゼミや補習を開催し、学力の向上に努めました。特に「高等教育の修学支援新制度」を利用している学生については、成績不振となった際に支援が打ち切られる可能性があるため、ゼミや補習への積極的な参加を促し、成績の維持及び向上に努めました。

2年次には1年次に学んだ基礎を臨床的に応用できるよう、治療現場での指導を取り入れています。3年次には国家試験に向けた取組として、早期より成績不良者の集団面談や個別面談、特に指導が必要な学生については保護者面談を行い、生活習慣の見直しも図りました。学内ではチューター制を導入し、補習や学習環境の提供等を行い、学力の底上げを図りました。

令和2年度も行いましたが、柔道整復師養成指定規則のカリキュラムに「医用画像の理解」が組み込まれているので、グループ校間で超音波観察装置症例検討会をリモートで開催し、教員の資質向上を図りました。また、本校の特色である現役の臨床家による実技授業や、臨地実習も引き続き行い、柔道整復師及び鍼灸師として、施術所やスポーツトレーナーの現場に必要な知識や技術を修得するための実習現場の確保も行いました。

加えて、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者養成講習会講習試験免除適応コース（共通科目Ⅰ・Ⅱ）の認定講座、公益社団法人日本アロマ環境協会の「アロマセラピーアドバイザー資格」と「アロマセラピーインストラクター」、「アロマハンドセラピスト」認定講座、さらに、公益財団法人日本パラスポーツ協会の「公認パラスポーツ指導員（初級）」の認定講座も引き続き開催し、教育の充実を図りました。

③ 国家試験対策の充実

鍼灸師科、柔道整復師科における新卒者の国家試験合格率は、鍼灸師科のはり師100%、きゅう師100%と、今回はすべての卒業生を合格させることができました。柔道整復師科では、平成30年度、令和元年度と過去2年連続で新卒者の全国平均を下回っていた時期がありましたが、令和3年度における合格率は92.7%でした。令和3年度における全国の新卒者平均合格率は81%で

あり、本校は2年連続でこの全国の平均合格率を上回ることができました。

国家試験対策としては、両科ともグループ校との合同模擬試験や実力テストを実施し、その結果を国試対策委員と3年生担任が分析し、それに基づき意見交換を行い、指導方法を検討しました。3年生の学修到達度とその傾向を把握・分析し、教育内容にフィードバックすることで、更なる教育の質向上を図りました。また、成績不良者には、集団面談や個別面談、保護者面談を実施して、私生活の見直しに至るまで指導し、学習環境の改善に取り組んできました。

柔道整復師の国家試験では、解剖学や生理学、柔道整復師理論の問題数が多いため、副教科よりも優先的に学習するように指導しました。

鍼灸師科では、経絡経穴概論等、暗記が必要な科目が多いため、早期から暗記練習を行ったことが、学力向上に繋がったと考察しています。

鍼灸師科において以前から導入されていたチューター制については、柔道整復師科においても令和2年度より導入し、成績の底上げを図ることができました。また、学生同士が教え合うことも学生の学力向上に繋がっていると考えているので、学生同士で切磋琢磨していくことが今後更に活発になるよう、自習スペースなどの教育環境の充実を図るとともに、個別指導を強化し、国家試験合格率の更なる向上を目指します。

④ 就職支援の充実

医療専門課程では、キャリアサポート室にて各企業からの求人票を受け付け、それを教職員へ共有して精査しています。更に、学生個々の進路状況を把握・分析し、学生と求人元のミスマッチが起こらないよう、細やかなサポートに努めました。

学生と話す時間を確保し、不安や焦りに寄り添えるような支援体制も構築しています。

就職説明会、企業説明会等については、外部の業界就職支援事業を学生へ案内するだけでなく、学内における合同企業説明会を開催しました。外部の説明会では出会う機会の少ない個人院や小規模院も招くことで、企業規模に偏った就職活動支援にならないよう調整しました。

企業説明会については、その参加対象者を全学年に設定したことで、早期就職活動の意識付けや、在学中のアルバイト勤務を促進することができました。

日本語学科では、ほとんどの学生が進学を目指しており、進学を目指す学生については、応用日本語学科への内部進学を含め100%の進学率となりました。一方、就職活動をする学生については、就職活動の方法の指導、特定技能での就職を目指すものについては、受験のサポートを行いました。

⑤ 日本語学科の充実

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として令和2年度から日本政府による入国制限があり、令和3年度は入学生がおらず、在校生は2年生のみとなりました。2年生については、前年度に新型コロナウイルス感染症の影響により入国が遅れたことから学習期間が短く、またコロナ禍の中で外出やアルバイト等の機会も減り、生活面で日本語と接する時間も少なかったことから、例年に比べ日本語の習得が困難な1年となりました。その中でも、早めの進路指導や意識づけ等を行い、手厚い指導を行いました。

⑥ 応用日本語学科の充実

スキル別の授業で日本語能力試験受験のための実力を身に付ける授業だけでなく、実践的な日本語能力を高めるための授業を多く取り入れました。インターネットから情報を得て、その情報をまとめ、自分の意見を取り入れて発表したり、ディベート、リレー小説、プレゼンテーションをしたり等、自分の意見を発信する能力の育成を目指し、学生たちも楽しみながら日本語の学習を進めることができました。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

柔道整復師科と鍼灸師科の学生にとって、より通いやすかつ学びやすい学校となるよう、令和4年度入学生から授業時間を変更することを決定し、令和4年度入学生の募集活動にあたりました。結果としては定員充足には至りませんでした。柔道整復師科の令和4年度入学生は、令和3年度入学生に比べて大幅に増加しており、授業時間の変更は一定の効果があったと考えています。

令和3年度においては、日本語学科の入学予定者が入国することができず、予算の大幅な見直しを行いました。また、学内においては学生ポータルサイトとしてMicrosoft Teamsを利用していくことを決定し、計画を前倒しして運用を開始しました。学生への各種連絡はMicrosoft Teamsにて行っており、情報の一元化が実現でき、学生にわかりやすく、業務の効率化にも繋がりました。

就職サポートについてもMicrosoft Teamsを利用して、最終学年に対する就職活動状況アンケートを実施し、学生個々の状況把握を行い、状況に合わせた適切なサポートを行いました。

加えて、同窓会組織である貞友会とも連携して、就職サポートに関するイベントを開催しました。

⑧ 施設設備の整備

令和3年度は、令和2年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画に沿った整備を十分に行うことができませんでした。しかしながらその中でも、整備・修繕の優先度を見極め、施設設備については、第1校舎一部教室のエアコン配置の変更及び機器の入替えを行い、より学びやすい環境を整えました。

また、ICT環境整備の一環として、特に老朽化が進んでいた教職員の業務用パソコンの総入れ替えも実施しました。これらにより、ペーパーレス化への意識改革が更に進んだことや、令和2年度から取り入れているMicrosoft 365 (旧 Office 365)の活用から、学生と教職員間の連携強化をより高められ、業務の効率化を進めることができました。

⑨ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

本校の設立母体でもある全国柔整鍼灸協同組合は、30余年の歴史を誇る厚労省認可団体であり、柔道整復・鍼灸業界のあらゆるニーズに応え、全国展開している業界団体です。全国柔整鍼灸協同組合とは本校設立当初より、様々な形で連携をとっています。全国柔整鍼灸協同組合や関連団体である大阪府鍼灸マッサージ協同組合と連携し、柔道整復療養費、はり・きゅう療養費の取扱いに関する授業を毎年度実施しています。令和3年度においても、コロナ禍中ではありましたが、令和2年度と同様に、前述の両団体から講師をお招きし、療養費の正しい取扱いや不正請求の実態、施術管理者の要件等について授業を実施できました。また、全国柔整鍼灸協同組合のネットラジオにも教員や学生が出演し、現在の教育や学生生活等を社会へ発信しました。

なお、両団体の会員施術所における臨床実習は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、一部の施術所で実施することができませんでした。

⑩ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和2年度と同様に、基本的な感染対策として、外気との換気やマスク着用、手指消毒の徹底を行い、登校時の検温や健康チェックを義務付けていました。外気との換気は、窓や扉の開放を行っており、換気状態は良好でした。また、『新型コロナウイルス感染症対応マニュアル』をもとに、学生への指導や感染症対策を実施し、集団感染のリスク及び重症化のリスクの高い学生への対応方法等については教職員間で情報共有しました。緊急事態宣言中及びまん延防止等重点措置期間中は、感染防止対策を行いながら対面授業とMicrosoft Teamsを利用したリモー

ト授業を行うハイブリッド授業としました。教室では3密とならないように座席や学生と教員との距離を確保した配置を行いました。医療専門課程における実技授業は、昨年度の経験をもとに、感染防止対策を充分に行った上で、実技能力を担保するためにすべて対面授業で行いました。学校施設内において食事をする際には、食事時の会話は禁止し、食事後は直ぐにマスクを着用して、飛沫の飛散防止をするよう指導しています。

(3) 横浜医療専門学校

① 入学者の確保

中期計画に則り、「広報戦略」を策定し令和4年度の入学者目標を明確に定め、広報活動を実施しました。

高校生については神奈川県内の高等学校への訪問活動を重ね、高等学校との信頼関係の構築を図りました。また、業者や高等学校が実施するガイダンスに積極的に参加し、直接高校生と接触し、他校との違いを明確に説明することによって本校のイベントへの参加に繋げることができました。

社会人については特に本学卒業生が開業、勤務している治療院と、就職相談会に参加実績のある接骨院、治療院への訪問を重点的に実施し、先生方との関係性の強化を図りつつ、紹介により入学者を確保しました。また、社会人に特化した「夜間学校説明会」を1ヶ月早期化させて実施しました。

その他、新たに現在「大学・大学院・専門学校等を卒業予定者」もしくは「退学予定者」が受験可能な入試を追加実施し、質の高い入学者確保を図りました。

オープンキャンパスでは、本校の特徴をいかし、実践に即した実技が体験できる参加者体験型授業や、学生スタッフとオープンキャンパス参加者がコミュニケーションを取ることが出来る時間を十分にとり、満足度の高い学校説明会を実施するとともに、施術現場の雰囲気イメージできる体験を通して、参加者の出願率向上を図りました。

ホームページとパンフレットについては「YOKOHAMA」という地域性をいかし、明るく洗練されたイメージを前面に出したイメージ構築を図りました。また各媒体業者に出稿する原稿も、ホームページ、パンフレットと整合性のあるデザインで統一し、高校生や社会人に受け入れられやすいイメージ戦略を推進しました。

日本語学科では、ベトナム、ネパールの他、フィリピン、台湾を対象に、留学生を紹介するエージェントの新規開拓に注力しました。また留学希望者にはオンラインシステムを活用し、対面に近い形式で費用や学習面でのサポートについて丁寧に説明し、留学生を募るよう努めました。

② 教育の充実

令和3年度は、コロナ禍において感染対策を行いながら対面授業を実施してきました。

今後の有事に備え「統合教育・総合科目」の時間を利用し、オンライン授業にも対応できるように備えも怠らず実施してきました。

1年生には最初の2週間を使い「初學者教育」を行いました。そこでは、学生が必ず最初に苦戦する医学用語や、解剖学、生理学に触れ、各科目のハードルを下げることで、通常授業に入りやすい環境作りを行いました。また令和2年度同様「学年担当制」を継続し、退学防止に努めていました。しかしながら、年度末になるにつれ退学者が続出し、食い止めることができませんでした。この原因を分析し令和4年度には改善を図っていきます。

令和2年度、コロナ禍で実施できなかったゼミナールや外部実習は、実技の時間を削減することや臨床実習期間を短縮することで、制限をかけ実施することができました。令和4年度は、現場で即戦力として活躍できる内容のゼミナールを準備していきます。

横浜医療専門学校研究会雑誌の初刊の発刊も行いました。教員の論文はもちろんのこと、令和2年度10台常設した超音波画像装置を使用し、学生が作成した研究レポートの中から、優秀なレポートを選出し雑誌に投稿しました。

③ 国家試験対策の充実

令和3年度の国家試験結果を詳細に分析し、戦略の見直しを実施します。

柔道整復師科、鍼灸師科の両学科においては、「学年担当制」での3年生担当が中心に最新情報の収集や予想問題の作成など、出題基準の変化に対応できる取組を進めています。既卒受験生に対しては基礎から応用まで国家試験合格に必要な知識を幅広く学び直す機会として「聴講制度」設け、手厚くサポートしています。さらに、近年ますます難化傾向の国家試験を踏まえ、1、2年生から四択問題を解き、解説を受けるなど、国家試験に対する取組を強化しています。

また、定期考査（期末試験）の在り方とその難易度について、常勤教員のみならず非常勤教員も含めた検討を実施しています。常に教育用教材を見直すとともに、国家試験対策コンテンツとしての活用と充実を図っています。

④ 就職支援の充実

令和3年度は、4月に全学年に対して就職相談会へ向けてのアンケートを行い、学生の傾向などを加味して招致企業を選択しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、2日間の2部構成（1日20企業、1部3年生、2部1・2年生）にて対面で開催しました。

開催前には委員によるマナー講座も開催しました。開催後は学生、企業ともにアンケートを行い、就職率向上と卒業後の進路状況の把握が可能な仕組みを構築しました。

全体の就職率はアンケート上では約80%となり、そのうち就職相談会でのマッチング率は18%でした。

⑤ 日本語学科の充実

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学生が入国できない状況が続きましたが、その間、入国待機中の留学予定者を対象にオンラインによる入学前日本語教育を週2～3回ずつ、個別に実施し、個々にコミュニケーションを図るとともに、入国が可能になった時点で、留学生が一定の日本語能力を有し、日本の生活習慣への理解を持って入国できるよう注力しました。

また学生寮の整備や留学生向けの貸与型奨学金制度の整備等に努め、留学生が安心して日本での留学生活が送れるよう、環境を整えました。

⑥ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和3年度は教職員の研究・論文を作成し、横浜医療専門学校研究会雑誌（初刊）を発刊することができました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった課題などもあります。オンライン教育や感染拡大に注意を払いながら対面イベント等を行い、学生の国家試験の合格率や就職率に尽力しました。

中期計画の学習環境の改善については、ネットリテラシー等を含めたオンライン教育を行い、濃厚接触者や自宅待機者も講義を受講できるようにしました。以前から問題としてあった欠席による学習の遅れにも対応することができました。さらに、自宅、学校などの場所にこだわらない課題提出や、学校からの諸連絡等が可能となりました。

それらにより、学習の遅れによる退学者を減少させることができました。

⑦ 施設設備の整備

消防用設備点検の結果を受け、令和2年度に作成した中長期修繕計画に基づき、予算状況に応じた、スプリンクラー、自動火災報知機、ハロゲン化物消火設備等の順に優先順位を付けた

上で、修繕・改修を実施しました。また懸案であった治療院のエアコン故障についても工法を工夫し、経費を抑えることにより、更新工事を実施しました。工事時期は、授業への影響を踏まえ、可能な限り、学生の長期休暇中に着手から完了に至るよう努めました。

また、安全な学習環境の確保の観点から、令和3年2月に発生した地震による被害箇所については公的な補助金等を活用し、優先的に修繕を行いました。併せて3月実施の消防設備点検での不良箇所及びトイレ漏水箇所の修繕を行い、治療院のエアコン工事を実施しました。

さらに、令和2年度に整備した館内のWi-Fi環境を有効に活用し、授業等で使用する学生への配布資料のデータ化により効率化を進めました。

その他、環境問題やコスト面を考慮しつつ、デジタルコンテンツを活用した授業の導入や学生の学修効果を高めるためオンラインによる学習コンテンツの充実化を図りました。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

保険請求の仕組みやルールを全国柔整鍼灸協同組合の社員を招き、不正をなくすための知識・仕組みなどを学びました。

また、ゼミナールにおいて全国柔整鍼灸協同組合のレセプトコンピューターを使用して保険請求の仕方などを学びました。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

発熱等の体調不良となった学生（教職員）は、学校への連絡を徹底し欠席を促しました。濃厚接触者となった者は、保健所や医療機関の指示等により欠席をさせることで学内への新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐよう尽力しました。

欠席による学力の低下を防ぐために、補講等を行い勉学の遅れにならないように対策を講じました。

(4) なにわ歯科衛生専門学校

① 入学者の確保

令和3年度は本校の主な対象校である大阪・兵庫など在校生実績高校への訪問を、令和2年度の46校から125校に増やしました。オープンキャンパスでは、学校の雰囲気を感じる体験実習や在校生との交流、個別に対話する機会を持つことにより、参加者の満足度を高めることを重視しました。来校者についてはフェイスシールドやマスク、体験実習時は手袋を着用するなど感染対策に努めました。主な対象が高校生であることから、募集活動でのアプローチ（高校内ガイダンス・高校訪問）やSNS（LINE・Twitter・Instagram）を中心にスマートフォンやパソコンを活用した情報配信にも注力しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により体験型のオープンキャンパスは複数回中止となり、WEBオープンキャンパスへ切り替え、WEB個別見学の充実も図りました。

AO入試を中心に入学生の早期確保を目標に準備を進め、その結果、令和4年度入学生の入学試験の競争倍率は、昼間部1.3倍、夜間部1.6倍となりました。昼間部は入学定員72名に対し志願者111名、夜間部は入学定員36名に対し志願者71名となり、最終的に昼間部83名（充足率115.2%）、夜間部41名（同113.8%）が入学しました。

② 教育の充実

令和3年度は、従来のカリキュラムのほか、学外研修や歯科医療関係の企業からの講義・講演、技術的な講習の機会を拡大することに努めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、アメリカロサンゼルスでの海外研修を変更し沖縄研修を実施しました。

実技科目については昼間部・夜間部とも綿密な指導を行い、特に臨床実習前や卒業前の実技試験に力を入れて取り組みました。

さらに、歯科衛生士として高齢者や障がい者との接点も多いことから、福祉関係にも積極的に携わるようにしています。例年に倣って介護初任者研修やガイドヘルパーの講義を開講し、エイジレスセンターでの研修も行いました。

また、各担当が学生と接する時間を多く取り、精神面のケアや相談、学習のフォローを行うことにも努めました。

③ 国家試験対策の充実

国家試験については、年間13回校内および外部の模擬試験を実施し、指導に反映しています。例年に倣い、国家試験対策用のカリキュラム（総復習講義、国試対策補講）や外部の国家試験対策講座（夏季と国家試験前）も行うとともに、国家試験対策に特化した講義を取り入れました。また、過去の国家試験問題などを閲覧できるアプリも活用しました。

令和3年度の結果は、受験者116名中合格者111名で、合格率は95.7%（令和2年度93.8%）となり、受験者全体の全国平均（95.6%）を上回りました。不合格者には、国家試験対策講義の聴講や模擬試験などにより合格に向けた対策を行うこととしています。

④ 就職支援の充実

昼間部の学生は例年11月頃には就職希望先を決め、順次採用試験に向かうことから、そのための指導や相談を綿密に行いました。夜間部の学生は11月まで臨床実習があるため、それ以降に就職指導を行いました。卒業後の就職状況については、卒業生117名に対して求人件数は10倍以上となり、就職希望者はほぼ採用が決定しました。就職先は主に一般の歯科診療所となっています。就職時期が卒業式後に決定する学生が多くなっていることから、今後も、就職希望者全員が就職できるよう、学生一人ひとりに対するきめ細かい進路指導を行っていきます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和3年度は、令和2年度同様に教育理念に基づき学校運営に注力し、新型コロナウイルス感染症対策として教育環境の整備を行いました。特に、オンライン授業実施のためにZoomを導入し、それを使つての教育や従来から利用してきたWEB会議システムの更なる効果的且つ効率的な利用など、中期計画に掲げていた「情報システムのより効果的・効率的な運用」という目標を達成することができました。

社会貢献・地域貢献についてはこれまでの取組を見直し、今後は自己点検・評価を通して適宜修正を行います。

今後の中期計画については、運営会議などで本校の今後の課題を分析し、具体的な学校運営の目標を検討します。

⑥ 施設設備の整備

令和3年度については、学内の複合機の入替えを実施し、全館に新型コロナウイルス感染症拡大防止用のアクリル板の設置も行いました。

また、現状でまだ問題が見られる個所を点検した上で、順次見直す予定です。

⑦ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、校内における感染予防対策としては教室・ロビーまたはエレベーター等の共用部分を毎日除菌し、室内換気するなどしています。学生のマスク着用や手指消毒、検温、健康管理シートへの記入を徹底して実施し教職員に感染者または濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示に従い対応しています。

実技授業での感染症対策としては、マスクの着用と併せてフェイスシールド及びゴーグルの装着も必須とし、手指消毒と実習設備や椅子、備品の消毒作業を行いながら実施しております。

医療法人美和会との連携により、教職員と全学生に対してワクチン接種を推奨し、3回目を接種している学生については臨床実習を総合病院の実習先とし、その他の学生については一般歯科医院を中心に行うように調整しました。

(5) 名古屋平成看護医療専門学校

① 入学者の確保

令和3年度の学生募集活動では、新たに「学生募集委員会」を発足し広報職員と学科教員が一体となり学生募集活動に取り組んだことにより、コロナ禍の影響でオープンキャンパス参加者数が微増であったにも関わらず、受験者数を増加させることができました。結果、令和3年4月の入学者数が144名だったのに対し、令和4年4月入学者数は157名に増加しました。

また、令和4年度より看護学科以外の入学定員数を減員したことにより（理学療法学科：35名から30名、柔道整復学科：54名から30名、はり・きゅう学科：60名から40名、アスレティックトレーナー学科：50名から25名）、入学総定員165名に対し入学者数が157名となり入学定員充足率は95.2%に改善しました。

② 教育の充実

令和2年度より、教育理念に掲げている「徳義の涵養」を実践する教育として、「感謝」（学修環境や健康に感謝する心を学ぶ）、「自他共栄」（人間関係の重要性を学ぶ）、「自律」（自ら学ぶ心を修得）の3つを軸としたCM教育（cultivate morality）を取り入れています。

CM教育を通して、学業だけでなく、学校行事をはじめ地域貢献やボランティア活動への参加や、企業見学や学会への参加などの実社会の経験を通して、他者への敬意や感謝の気持ちを醸成するとともに、コミュニケーション能力をはじめ自己分析や問題解決能力を養うことにより、積極的に自らの道を切り開いて社会貢献できる人材となることを目指しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年度に中止となった、スポーツ大会などの学校行事や、認知症カフェやマラソン大会へのサポートなどの地域貢献やボランティア活動も、新型コロナウイルス感染症予防対策をしっかりと行った上で、可能な限り再開しました。

平成医療学園グループで実施しているベトナム（基礎医学）、台湾（中医学）、ロサンゼルス（スポーツ及び医療施設）などの海外研修や平成医療学園のグループ校間で行われる学術研究会などは令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策により残念ながら中止となりましたが、今後も引き続き、学外の学生・教員との交流活動の再開に向けて努力し、広い視野を持ち教育の多様化に対応できる優秀な学生や教員の育成を目指します。

③ 国家試験対策の充実

令和3年度の新卒者の国家試験受験者は、看護学科26名、はり・きゅう学科4名（はり師、きゅう師）に対して、国家試験合格者は、看護学科22名、はり・きゅう学科4名でした。はり・きゅう学科の合格率は100%でしたが、看護学科の新卒の全校平均が96.5%に対し85.0%と、11.5ポイント低くなりました。

看護学科では、取り組む問題集を統一し学生間で刺激し合うなど学年全体としての底上げを試みましたが、コロナ禍の影響により対面による国家試験対策の指導時間が例年よりも減少傾向にあったことが原因であると分析しています。

アスレティックトレーナー学科の日本スポーツ協会アスレティックトレーナー認定資格については理論試験に4名が合格し実技試験を受験しました。結果は5月中旬頃の発表となります。

④ 就職支援の充実

令和3年度の卒業生は、設置者変更による募集活動の遅れにより学生数が少ない学年であり、

理学療法学科と柔道整復学科には卒業生がおらず、看護学科で27名、はり・きゅう学科で4名、アスレティックトレーナー学科で8名の計49名でした。

全体として学生の就職や求人に対する意識を高めるために「就職指導室」を学生が滞留し利用しやすい図書室横に移転しました。また、各学科の求人票を取りまとめて共有することにより、学生が様々な求人情報に触れる機会を増やしました。

看護学科では、2年生の春よりインターシップに出向き就職活動を開始し、その後、履歴書の書き方や面接の練習等を重ね、実習病院に就職した7名を含め最終的には100%の就職率でした。

はり・きゅう学科では、3年生の6月から外部講師を招いて履歴書の書き方や企業訪問の仕方、求人票の見方などのレクチャーを実施、7月に企業説明会を実施し、就職希望者の就職率は100%でした。

アスレティックトレーナー学科では、8名の卒業生の内2名が関係分野に就職し、1名は既に就業している分野で起業しました。残りの5名は、医療国家資格とのダブルライセンスの取得を目指して、本校の医療専門課程の学科に在籍しています。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和3年度は、コロナ禍による社会全体への影響並びに生活様式の見直しにより、中期計画の「学校運営」「学生の募集と受入れ」「教育環境」「教育活動」の4項目について、IT技術等を活用した非対面による教育活動並びに学校運営の環境を速やかに整備し活用したことにより、大きな混乱なく年度目標は概ね達成できました。

しかしながら、コロナ禍への対応のため校舎内のWi-Fi環境の整備を優先したことや、通信機器の予定外の故障の発生から、空調設備の大規模修繕等の施設・設備の整備に遅れが発生しています。また、令和3年度に完成予定であった「柔道場」建設が、地域住民との調整が長引き完了できていません。

⑥ 施設設備の整備

令和3年度には、コロナ禍における私立学校情報機器整備費補助金を活用し、校舎内のWi-Fi環境の整備を行い、オンラインによる遠隔授業や分散授業の利用だけでなく、講演会や会議、教員と学生の連絡など多岐に亘り活用しました。

令和3年度完成予定であった柔道場については、近隣住民との調整が長期化し建築図面の変更見直し等が発生したことで完成が令和4年度にずれ込んでいます。なお、柔道の授業は、隣接したビルの柔術場のフロアを確保し実施しています。

柔道場建設の遅延による柔道場の別途確保、ケアセンター、トレーニング室、スタジオ等の移転、そして看護学科の更衣室の移転など、学校施設の用途変更の届出を適宜行い監督官庁にも承認を得ています。

実施が遅れている柔道場の建設並びに空調設備等の大規模修繕についても、各学科における教育活動等の進捗状況を考慮した上で、優先順位の高い校舎及び教室から計画的に整備を行うことを予定しています。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

平成29年度の「柔道整復師学校養成施設指定規則」及び「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」の改正により、教育内容として関連産業との連携が求められています。

全国柔整鍼灸協同組合には柔道整復や鍼灸の保険取扱い業務に関する講習会や業界団体説明会などの開催を依頼し、本校としては全国柔整鍼灸協同組合の東海地区の拠点としての役割を担うことにより協力体制を強化し、業界団体を母体とする学校法人平成医療学園の強みを活かした産学連携事業を今後も進めていきます。

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症に対する集団ワクチン接種の柔整鍼灸業界枠での接種キャンセル分を本校の教員または学生が摂取できるように、全国柔整鍼灸協同組合に手配いただいたことにより、ワクチン接種が条件である病院実習または外部実習を無事に終えることができました。

⑧ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和2年度に引き続き、厚生労働省や愛知県のマニュアルに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、学生や教職員に感染者または濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示に従い対応しています。

校内における感染予防対策として、教室・ロビーまたはエレベーター等の共用部分を毎日除菌し、教室内においては座席間隔を空け、サーキュレーターを使用し室内換気するなど3密環境の排除を徹底しています。また、学生には登校時の検温、マスク着用、昼食時は一方向を向いての食事、実技授業では、フェイスマスクや手袋を着用するなど感染対策に努めています。来訪者やオープンキャンパスの参加者にも同様にマスク着用と検温をお願いしています。

全学科が参加するスポーツ大会や地域の高齢者を対象とした認知症カフェ、そしてマラソン大会の救護ボランティアなどの人的交流が主となる活動についても、感染防止対策を万全に行った上で徐々に実施を再開しています。

(6) 日本総合医療専門学校

① 入学者の確保

令和3年度23名の入学から微増の31名が入学しました。高校訪問やガイダンス、web広告など再認知活動に努めましたが、定員に対しての達成率は51.7%にとどまりました。

資料請求者数と来校からの出願率は伸びたものの、来校者数が減ったことで定員充足に至るまでの母数を確保できませんでした。

② 教育の充実

令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じつつ、学生の学修機会の確保を第一に取り組みました。

緊急事態宣言下においては、リモート授業と対面授業を組み合わせ、学生の安全と教育の質を担保した授業を行いました。また、学生との対面機会減少を踏まえ、登校時の検温に加え、立哨指導も行いました。

学習指導においては、新型コロナウイルス感染症対策から直接的な指導機会が減ることを踏まえ、丁寧な指導を心がけました。1年生においては、初学者であることを再認識し、授業の進行速度や説明方法を工夫し、学生が余裕をもって学習に取り組める環境を提供しました。2年生では、学生生活の形式化による学習意欲の低下を防ぐために、リモートによる個別面談や成績低下傾向の学生への補習授業を行いました。3年生においては、国家試験に関連する授業を充実させ、勉強への動機づけを重点に指導を行いました。毎日、インターネットを介して練習問題を提供し、継続的に学習に取り組める環境を提供しました。

さらに、クラス担任による学生面談を定期的実施し、学習課題点への助言を行うとともに、生活環境も把握し、個別性を重視した指導を行いました。

令和4年2月には、新型コロナウイルス感染症の感染状況が沈静化したことを踏まえ、昨今の入学者の大多数が高校新卒であることを鑑み、資格取得後のキャリアについて、専門家を招き、キャリア形成セミナーを実施しました。

また、令和3年度も神奈川歯科大学において解剖実習見学を行いました。当初は新型コロナウイルス感染症拡大から実施が危ぶまれましたが、大学側と感染防止策を講じることによって

実施することができました。

③ 国家試験対策の充実

令和3年度の新卒合格率は74.2%でした。例年であれば、90%前後を推移していましたが、令和3年度は至りませんでした。原因としては、新型コロナウイルス感染症に対する策としてリモート授業を展開しましたが、1、2年生からは安全に授業を受けられるという声がありましたが、3年生に関しては、安全ではあるものの教員に直接質問ができないことや、コミュニケーションが取れる時間が限られているということもあり、例年と比べて国家試験に向けて勉強する意識改革が遅れました。

令和4年度は、年度当初のオリエンテーションから意識改革と勉強習慣の完全定着を指導し、国家試験の合格率を高いレベルまで持っていきたいと考えています。

④ 就職支援の充実

年に2回の合同就職説明会を開催し、その都度、担任、副担任による面談を実施しました。どの分野に興味があり、どのような進路を希望しているのかを聴取し、就職先の選考を進めました。その結果として、就職を希望する学生の100%を就職させることができました。また、年度の終わりにキャリアについて考えるセミナーを実施しました。就職先を考える前にどんな柔道整復師になるのかを学ぶ機会を設けました。令和3年度に設けていた治療体験会の実施はコロナ禍のために実施を見送りました。クチェーン系の説明会と中小の接骨院様との説明会とに分けて実施したいと考えています。

⑤ 鍼灸学科の設置計画について

令和3年度には、柔道整復学科に加えて新たに鍼灸学科の設置認可申請を提出し、統合医療を融合して西洋医学だけでは解決できない不定愁訴への対応など、患者中心とした施術ができる医療人の育成を目指す計画でしたが、令和4年度開設の認可が下りず見送りました。そのため、令和5年度開設に向け、校舎移転し、鍼灸学科新設の再申請をします。

⑥ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学校統合による校舎の移転と鍼灸学科の新設はできなかったものの、教育理念・教育目的・育成人材像の具体化に向け、カリキュラム変更を実施しました。新カリキュラム施行に伴い、それに沿った授業計画を作成し、シラバスと実際の授業内容に齟齬が生じているものについてはシラバスの内容を見直しました。また、学生の満足度向上のため、定期的に学生面談を実施し、学生の意見を聴取し、学生ニーズの把握に努めました。学生の大きな利益となる要望（例えば自習のための休日の学校開放等）については積極的に取り組みました。学生の声については、直接聴取する方法で情報収集を行う方針に変更し、その結果、学生のヒアリングから授業の改善点を洗い出しその対応を図りました。また、定期的な授業見学も実施し、担当教員へ改善のアドバイスを行いました。令和4年度については、校舎の移転及び鍼灸学科の新設の方針が出ているため、その方針に向けて準備を行っています。令和4年度についても自己点検自己評価を確実に行之、中期計画及び事業計画の進捗・達成状況を確認しつつ、適時変更修正を行います。

⑦ 施設設備の整備

附属接骨院においては、令和2年度に導入した超音波画像診断装置による効率的な画像診断が行えるように配置し、活用しました。また、専任教員が当院における兼任勤務体制を構築し、患者の施術にあたることで、授業科目である臨床実習における授業効果を高めました。しかしながら、臨床実習施設の諸々の設備の老朽化が進んでいるため、現在利用されていない旧中央

医療学園専門学校の各種機材を本校臨床実習施設において有効利用することを検討し、一部実践しました。さらに、トイレ周辺、教室の扉、正面玄関の自動ドアについても、老朽化が進んでいるため、修繕の見積りを取得し、来期に向けて計画的な修理を行い、学習環境や学生生活の向上に努めます。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

令和3年度は、全教職員に対して全国柔整鍼灸協同組合の事務局長による保健請求勉強会を実施しました。

また、学校関係者評価委員会では、委員会委員である全国柔整鍼灸協同組合東京事務所所長から臨床実習等に係る学校業務に関する意見をいただきました。卒業生の全国柔整鍼灸協同組合への令和4年度も令和3年度同様に、本校の設立母体である全国柔整鍼灸協同組合との連携強化として入会を促進する一方で、同組合からの入学希望者の紹介から卒業後の就職先までの連携関係を強化し、トータル的な人材育成を目指します。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策として、手洗いうがい等の注意喚起の徹底を行いました。具体的には、登校時に教職員による検温を実施し健康チェックを行いました。令和4年度は、学生自らが検温や健康チェックができるような体制にしていきます。また、無症状感染の多発リスクを避けるため、教室にはダイオーズ、日本カルミックから無償レンタル(冬の時期のみ)された空気清浄機等を整備し、学校内でのクラスターを発生させないようにしました。コロナワクチン接種については、全国柔整鍼灸協同組合、荒川区を通じて大規模接種会場での接種を推進し、学生に対しても速やかな情報の告知を行いました。

(7) 和歌山看護専門学校

① 教育の充実入学者の確保

和歌山看護専門学校は、令和3年3月に事業譲渡を受け、新体制で1年間運営してきました。学生に対しては、旧専門学校の伝統を継承しながらも本校の教育理念である「生命の尊厳に基づき、社会の期待に対応し貢献できるよう看護基礎教育と豊かな人間性を備え、誇りをもって看護を実践できる人材の育成をする。」に基づき、教育を実施してきました。

② 国家試験対策の充実

1年次から順次実施している業者による模擬試験（1年生2回、2年生4回、3年生15回）を継続して実施するほか、外部講師による3年生を対象とした夏季の学習会や学内で作成した模擬試験などを計画的に実施し、併せて個別指導も行い、令和3年度の国家試験合格率は93.5%でした。

③ 就職支援の充実

和歌山看護専門学校では、旧専門学校の開設時から、和歌山県内の病院に対し安定的に看護師を送り出すことを大きな目的としてきました。事業譲渡後も、和歌山県内での就職の推進を進めることとし事業譲渡に伴う不利益が出ないよう努めてきました。入学時に行った病院説明会で約半数の学生が病院奨学金を受け、併せて就職先も概ね決定しているところです。一方、それ以外の学生に対しては、2年次後期から就職指導を開始し、3年次には、就職試験の確認、願書の記載方法や面接練習等綿密に就職指導を行いました。

④ 事業計画の進捗・達成状況

3年生は、コロナ禍ながらも31人中29人が国家試験に合格し、就職活動を精力的に行うなど

して31人全員が就職を決定しました。そのうち、30人は県内病院に就職しています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、授業については感染対策に十分に配慮しながら対面授業を行い、実習については保育所及び保健所での実習ができなかったため学内に変更して実施しました。

⑤ 施設設備の整備

令和3年度については、大きな施設設備の整備は行いませんでした。既存の建物について、随時必要な修繕を行いました。

⑥ 新型コロナウイルス感染症対策について

行政の通知等に基づき、新型コロナウイルス感染症対策を学生に周知徹底し、校内における感染予防対策として、教室内でのソーシャルディスタンスの確保、サーキュレーターによる換気など3密環境の排除を徹底しています。また登校時の検温、手指の消毒、マスク着用、昼食時の黙食の励行、実技授業では、マスクや手袋を着用するなど感染対策に努めております。

(8) 法人本部

① 規程整備の推進

本学園は、令和3年3月31日付けで文部科学大臣に宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科設置に係る寄附行為変更認可申請を行いました（令和3年10月22日文部科学大臣認可の日から施行）。

なお、諸規程を順次見直し、実態と整合しない条文等を修正、整備を行い、規程を更新していくとともに、グループウェアを利用して構築しました本学園の諸規程を各学校の教職員が閲覧できるシステムを活用して周知しています。

② 情報公開の充実

令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に則り、寄附行為の内容、監査報告書の内容、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）、役員の報酬等の支給の基準等の情報を公開しています。

また令和3年度には、学園ホームページをWeb環境（スマートフォンやタブレットによる閲覧）に適したデザインにリニューアルを行いました。

③ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に従い、令和2年度から6年度までの5年間の中期計画を策定しました。令和3年度では、法人本部は計画に基づき「経営ガバナンスの強化」、「財政基盤の安定化」、「施設・設備の計画的整備」の3項目について検討しました。

・経営ガバナンスの強化

コンプライアンス体制の強化として、監査法人監査、監事監査及び内部監査の三様監査が適切に機能し、チェック体制の強化が図れるように監事監査及び内部監査のあり方を検討するとともに、理事長の下にコンプライアンス推進委員会（仮称）を設置することにより、コンプライアンス意識の向上に向けた啓発活動のほか、各学校におけるコンプライアンス関連事案の情報収集と分析等を行い、内部統制の一環として法令遵守のチェック機能を果たすことを検討しました。

・財政基盤の安定化

令和3年3月に宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の設置認可申請及び同学科の設置に係る寄附行為変更認可申請を行い、令和3年10月22日付けで文部科学大臣より認可されまし

た。

また、令和3年12月23日付けで文部科学大臣へ特定公益増進法人であることの証明申請を行い、令和4年2月8日付で文部科学大臣による特定公益増進法人の証明書が送付されてきました。なお、寄付金の募集期間は、証明書発行日から5年間です。

・施設・設備の計画的整備

令和4年度に開設する宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の研究棟を増築するとともに、図書及び教育研究・管理用機器備品も令和3年度から令和5年度に掛けて購入します。

また、令和5年度開設予定の宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科に係る平成医療学園専門学校第2校舎の改修、図書及び教育研究・管理用機器備品の購入について検討しています。

④ 学校法人福寿会との法人合併について

令和4年2月17日の理事会・評議員会で、令和5年4月1日に学校法人福寿会との法人合併に向けて法人合併協定書案が承認され、令和4年3月31日に法人合併協定を締結しました。今後は、同年5月には、理事会・評議員会で法人合併契約案の承認を受けて法人合併契約を締結し、同年10月に文部科学省へ学校法人の合併認可申請書を提出します。

⑤ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策として、理事会・評議員会、常任理事会、各校の運営者会議等の会議では、遠方の出席者がリモートで参加できる環境を整えています。また、グループウェアを活用して学生・教職員の体調不良者の情報をリアルタイムで共有し、状況に応じた感染予防対策を講じて校内クラスターの発生を防いでいます。

法人本部では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、出勤時に必ず体温を計測して体調管理表に当日の体調を記入するとともに、入室時には必ずアルコール消毒液で手指消毒を行っています。

3 理事会・評議員会の開催状況

◆ 理事会

(令和3年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和3年5月29日	第1号議案：令和2年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和2年度決算（案）について 第3号議案：理事の競業について 第4号議案：宝塚医療大学施設貸出規程の一部改正（案）について 第5号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部紀南地方下宿生支援奨学金規程の制定（案）について 第6号議案：平成医療学園専門学校入学時特別奨学金細則の一部改正（案）について 第7号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科（仮称）設置の進捗状況について（報告） 第8号議案：日本総合医療専門学校名称変更及び校舎移転等の進捗状況について（報告） 第9号議案：各学校の学生募集結果報告について（報告） 第10号議案：その他
令和3年5月29日	第1号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について 第2号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について ① 入学定員・総定員数の変更について ② アスレティックトレーナー学科の教育課程表の修正について
令和3年7月28日	第1号議案：令和3年度第一次補正予算（案）について 第2号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第3号議案：学校法人平成医療学園顧問規程の制定（案）について 第4号議案：その他
令和3年9月10日	第1号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第2号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部改正（案）について 第3号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：学校法人平成医療学園宝塚医療大学のガバナンス・コードの制定（案）について 第5号議案：宝塚医療大学内部編入学学費等優遇制度に関する規程の制定（案）について 第6号議案：宝塚医療大学東京キャンパス留学生別科の校地、校舎移転について 第7号議案：宝塚医療大学東京キャンパス留学生別科校舎移転後の日本総合医療専門学校校舎の利用について 第8号議案：日本総合医療専門学校奨学金規程の制定（案）について 第9号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科（仮称）の設置に係る第二次専門審査における意見等について（報告） 第10号議案：宝塚医療大学社会福祉士短期養成通信課程及び社会福祉士一般養成通信課程の設置について（報告） 第11号議案：その他

令和3年10月18日	<p>第1号議案：令和4年度予算編成方針（案）について</p> <p>第2号議案：学校法人平成医療学園資産運用規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学保健医療学部の教育課程の変更について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学社会福祉士養成課程設置計画修正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程及び宝塚医療大学社会福祉士短期養成課程（通信）に関する規程の制定（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学社会福祉士養成課程受験生に対する入学金等優遇制度に関する規程の制定（案）について</p> <p>第7号議案：企業主導型保育園の業務委託契約解消について</p> <p>第8号議案：その他</p>
令和3年12月8日	<p>第1号議案：監事及び評議員の選任等について</p> <p>① 監事候補者の選出について</p> <p>② 評議員の選任について</p> <p>第2号議案：平成医療学園専門学校文化・教養専門課程応用日本語学科納付金の改定（案）について</p>
令和3年12月8日	<p>第1号議案：監事の選任について（報告）</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：学校法人平成医療学園電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定（案）について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第8号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>第9号議案：宝塚医療大学成績優秀者給付奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第10号議案：宝塚医療大学奨学金関連規程の一部改正（案）について</p> <p>第11号議案：宝塚医療大学私費外国人留学生授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第12号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科入学金減免制度に関する規程の制定（案）について</p> <p>第13号議案：平成医療学園専門学校入学時特別奨学金細則の一部改正（案）について</p> <p>第14号議案：平成医療学園専門学校新型コロナウイルス感染症対応緊急支援授業料減免規程の制定（案）について</p> <p>第15号議案：職業訓練法人東京都調理職業訓練協会への資金の長期貸付けについて</p> <p>第16号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第17号議案：その他</p>

令和4年2月17日

- 第1号議案：令和3年度第二次補正予算（案）について
第2号議案：宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について
第3号議案：観光学部観光学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について
第4号議案：保健医療学部口腔保健学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について
第5号議案：学校法人福寿会との法人合併について
第6号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について
第7号議案：校地（東京都荒川区荒川一丁目41番）の一部売却について
第8号議案：株式会社高度外国人材支援機構への資金の長期貸付けについて
第9号議案：資金の短期貸付けについて
① 医療法人美和会
② 学校法人福寿会
③ 社会福祉法人山の子会
④ 学校法人札幌青葉学園
第10号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科入学金減免制度に関する規程の一部改正（案）について
第11号議案：宝塚医療大学教職免許課程受講者選抜等に関する規程の一部改正（案）について
第12号議案：各学校の学生募集状況について（報告）
第13号議案：その他

令和4年3月30日	<p>第1号議案：学校法人札幌青葉学園の長期借入金について</p> <p>第2号議案：令和3年度第三次補正予算（案）について</p> <p>第3号議案：令和4年度事業計画（案）について</p> <p>第4号議案：令和4年度予算（案）について</p> <p>第5号議案：平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、なにわ歯科衛生専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校及び和歌山看護専門学校の校長の選任について</p> <p>第6号議案：理事の選任について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学副学長の選任等について</p> <p>① 宝塚医療大学副学長の定年年齢について</p> <p>② 宝塚医療大学副学長の選任について（報告）</p> <p>第8号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について</p> <p>第9号議案：宝塚医療大学入学金免除規程の制定（案）について</p> <p>第10号議案：宝塚医療大学ファミリー奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第11号議案：宝塚医療大学後継者育成奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第12号議案：横浜医療専門学校教学支援センター規程の廃止について</p> <p>第13号議案：横浜医療専門学校における納付金の減免及び褒賞等に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第14号議案：横浜医療専門学校日本語学科外国人留学生奨学金規程の制定（案）について</p> <p>第15号議案：名古屋平成看護医療専門学校医療専門課程、文化・教養専門課程校舎教室配置変更について</p> <p>第16号議案：学校法人平成医療学園保育園運営管理規程の制定（案）について</p> <p>第17号議案：平成医療学園専門学校第2校舎の移転に伴う校舎の賃貸借について</p> <p>第18号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第19号議案：日本総合医療専門学校の校舎移転について</p> <p>第20号議案：日本総合医療専門学校医療専門課程鍼灸学科の設置について</p> <p>第21号議案：その他</p>
令和4年3月30日	第1号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について

◆ 常任理事会

（令和3年度開催実績）

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和3年5月6日	<p>第1号議案：宝塚医療大学尼崎保健医療学部口腔衛生学科（仮称）の進捗状況について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学「観光学部観光学科（仮称・構想中）」の事業計画について</p> <p>第3号議案：緊急事態宣言等に伴う新型コロナウイルス感染症対策について</p> <p>第4号議案：その他</p>
令和3年7月28日	<p>第1号議案：令和3年度顧問の報酬について</p> <p>第2号議案：その他</p>

◆ 評議員会

(令和3年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和3年5月29日	第1号議案：令和2年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和2年度決算（案）について 第3号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について 第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について ① 入学定員・総定員数の変更について ② アスレティックトレーナー学科の教育課程表の修正について 第5号議案：宝塚医療大学施設貸出規程の一部改正（案）について 第6号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部紀南地方下宿生支援奨学金規程の制定（案）について 第7号議案：平成医療学園専門学校入学時特別奨学金細則の一部改正（案）について 第8号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科（仮称）設置の進捗状況について（報告） 第9号議案：日本総合医療専門学校名称変更及び校舎移転等の進捗状況について（報告） 第10号議案：各学校の学生募集結果報告について（報告） 第11号議案：その他
令和3年7月28日	第1号議案：令和3年度第一次補正予算（案）について 第2号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について
令和3年7月28日	第1号議案：学校法人平成医療学園顧問規程の制定（案）について 第2号議案：その他
令和3年9月10日	第1号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第2号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部改正（案）について 第3号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について
令和3年9月10日	第1号議案：学校法人平成医療学園宝塚医療大学のガバナンス・コードの制定（案）について 第2号議案：宝塚医療大学内部編入学学費等優遇制度に関する規程の制定（案）について 第3号議案：宝塚医療大学東京キャンパス留学生別科の校地、校舎移転について 第4号議案：宝塚医療大学東京キャンパス留学生別科校舎移転後の日本総合医療専門学校校舎の利用について 第5号議案：日本総合医療専門学校奨学金規程の制定（案）について 第6号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科（仮称）の設置に係る第二次専門審査における意見等について（報告） 第7号議案：宝塚医療大学社会福祉士短期養成通信課程及び社会福祉士一般養成通信課程の設置について（報告） 第8号議案：その他

令和3年10月18日	<p>第1号議案：令和4年度予算編成方針（案）について</p> <p>第2号議案：学校法人平成医療学園資産運用規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学保健医療学部の教育課程の変更について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学社会福祉士養成課程設置計画修正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程及び宝塚医療大学社会福祉士短期養成課程（通信）に関する規程の制定（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学社会福祉士養成課程受験生に対する入学金等優遇制度に関する規程の制定（案）について</p> <p>第7号議案：企業主導型保育園の業務委託契約解消について</p> <p>第8号議案：その他</p>
令和3年12月8日	<p>第1号議案：監事の及び評議員の選任について</p> <p>① 監事の選出について</p> <p>② 評議員の選任について（報告）</p> <p>第2号議案：平成医療学園専門学校文化・教養専門課程応用日本語学科納付金の改定（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について</p>
令和3年12月8日	<p>第1号議案：学校法人平成医療学園電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学成績優秀者給付奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学奨学金関連規程の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学私費外国人留学生授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科入学金減免制度に関する規程の制定（案）について</p> <p>第8号議案：平成医療学園専門学校入学時特別奨学金細則の一部改正（案）について</p> <p>第9号議案：平成医療学園専門学校新型コロナウイルス感染症対応緊急支援授業料減免規程の制定（案）について</p> <p>第10号議案：職業訓練法人東京都調理職業訓練協会への資金の長期貸付けについて</p> <p>第11号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第12号議案：その他</p>

令和4年2月17日	<p>第1号議案：令和3年度第二次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について</p> <p>第3号議案：観光学部観光学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：保健医療学部口腔保健学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：学校法人福寿会との法人合併について</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：校地（東京都荒川区荒川一丁目41番）の一部売却について</p>
令和4年2月17日	<p>第1号議案：株式会社高度外国人材支援機構への資金の長期貸付けについて</p> <p>第2号議案：資金の短期貸付けについて</p> <p>① 医療法人美和会</p> <p>② 学校法人福寿会</p> <p>③ 社会福祉法人山の子会</p> <p>④ 学校法人札幌青葉学園</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科入学金減免制度に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学教職免許課程受講者選抜等に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第6号議案：その他</p>
令和4年3月30日	<p>第1号議案：学校法人札幌青葉学園の長期借入金について</p> <p>第2号議案：令和3年度第三次補正予算（案）について</p> <p>第3号議案：令和4年度事業計画（案）について</p> <p>第4号議案：令和4年度予算（案）について</p>

<p>令和4年3月30日</p>	<p>第1号議案：平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、なほ歯科衛生専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校及び和歌山看護専門学校の校長の選任について（報告）</p> <p>第2号議案：理事の選任について（報告）</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学副学長の選任等について（報告）</p> <p>① 宝塚医療大学副学長の定年年齢について（報告）</p> <p>② 宝塚医療大学副学長の選任について（報告）</p> <p>第4号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学入学金免除規程の制定（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学ファミリー奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学後継者育成奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第8号議案：横浜医療専門学校教学支援センター規程の廃止について</p> <p>第9号議案：横浜医療専門学校における納付金の減免及び褒賞等に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第10号議案：横浜医療専門学校日本語学科外国人留学生奨学金規程の制定（案）について</p> <p>第11号議案：名古屋平成看護医療専門学校医療専門課程、文化・教養専門課程校舎教室配置変更について</p> <p>第12号議案：学校法人平成医療学園保育園運営管理規程の制定（案）について</p> <p>第13号議案：平成医療学園専門学校第2校舎の移転に伴う校舎の賃貸借について</p> <p>第14号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第15号議案：日本総合医療専門学校の校舎移転について</p> <p>第16号議案：日本総合医療専門学校医療専門課程鍼灸学科の設置について</p> <p>第17号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第18号議案：その他</p>
------------------	--

4 学位又は称号

(1) 取得可能な学位又は称号

◆ 宝塚医療大学

学部	学科	学位
保健医療学部	理学療法学科	学士（保健医療学）
	柔道整復学科	学士（保健医療学）
	鍼灸学科	学士（保健医療学）
和歌山保健医療学部	リハビリテーション学科	学士（保健医療学）
	看護学科	学士（看護学）

（注）理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

リハビリテーション学科作業療法学専攻・理学療法学専攻でも、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

看護学科では看護師国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、看護学科を除く全学科で教員免許（中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育））を、理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科ではアスレチック・トレーナー資格（JATAC-ATC）を取得可能。

◆ 平成医療学園専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
	東洋療法教員養成学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）
	応用日本語学科 2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、医療専門課程全科において、AEAJアロマセラピーアドバイザー、日本スポーツ協会スポーツリーダー、及び日本障がい者スポーツ協会初級障害者スポーツ指導者の資格を取得可能とし、さらに柔道整復師科・鍼灸師科では、アスレチック・トレーナー（JATAC-ATC）の資格も取得可能。

東洋療法教員養成学科では、あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員資格を取得可能。

◆ 横浜医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
文科・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）
	応用日本語学科 2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

（注）歯科衛生士国家試験受験資格に加え、所定のカリキュラムを履修することにより、介護職員初任者、移動支援従業者（全身性障がい）、移動支援従業者（知的障がい）資格を取得可能。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）
	理学療法学科	高度専門士（医療専門課程）
	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	はり・きゅう学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー学科	専門士（文化・教養専門課程）

（注）看護学科・理学療法学科・柔道整復学科・はり・きゅう学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

アスレティックトレーナー学科では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの受験資格を取得可能。

◆ 日本総合医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	専門士（医療専門課程）

（注）国家試験受験資格を取得可能。

◆ 和歌山看護専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）

（注）国家試験受験資格を取得可能。

(2) 学位授与数及び授与率

◆ 宝塚医療大学

（令和3年度、単位：名）

学科	学位授与数	卒業学年在籍者数	学位授与率
理学療法学科	73	77	94.8%
柔道整復学科	52	56	92.9%
鍼灸学科	19	21	90.5%
合計	144	154	93.5%

（注）「卒業学年在籍者数」は令和3年5月1日現在。

5 学生生徒等納付金

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：円)

理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	350,000	350,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,750,000	1,750,000
柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
リハビリテーション学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	850,000	850,000	850,000	850,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000	400,000
実習費	250,000	250,000	300,000	300,000
合 計	1,800,000	1,500,000	1,550,000	1,550,000
看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
施設管理費	300,000	300,000	300,000	300,000
実習費	150,000	150,000	150,000	150,000
合 計	1,750,000	1,450,000	1,450,000	1,450,000

(注) 上記のほか、学生会費、後援会費、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

留学生別科 1年課程	1年次	—
入学金	120,000	—
授業料	620,000	—
合 計	740,000	—
留学生別科 1年6ヶ月課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	310,000
合 計	740,000	310,000
留学生別科 2年課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	620,000

合 計	740,000	620,000
-----	---------	---------

介護福祉別科	1年次	2年次
入学金	200,000	—
授業料	850,000	850,000
施設管理費	0	0
実習費	0	0
合 計	1,050,000	850,000

社会福祉士養成課程 短期養成課程(9か月)	1年次
入学金	30,000
授業料	180,000
実習費	120,000
合 計	330,000
社会福祉士養成課程 一般養成課程(1年9か月)	1年次
入学金	30,000
授業料	270,000
実習費	120,000
合 計	420,000

(注) 実習費は、実習履修者のみ必要。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和4年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
教材費	200,000	200,000	200,000
合 計	1,560,000	1,310,000	1,310,000
東洋療法教員養成学科	1年次	2年次	—
入学金	250,000	—	—
授業料	600,000	600,000	—
施設管理費	200,000	200,000	—
教材費	200,000	200,000	—
合 計	1,250,000	1,000,000	—
日本語学科 日本語・医療福祉系1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	—	—
合 計	720,000	—	—
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	310,000	620,000	—

合 計	410,000	620,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	620,000	—
合 計	720,000	620,000	—
応用日本語学科 1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	750,000	—	—
合 計	850,000	—	—
応用日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	750,000	750,000	—
合 計	850,000	750,000	—

(注) 上記のほか、学友会費、教科書代、白衣代（医療専門課程のみ）等の諸経費が必要となります。

◆ 横浜医療専門学校

(令和4年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	240,000	—	—
授業料	840,000	840,000	840,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,520,000	1,280,000	1,280,000
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	325,000	650,000	—
合 計	425,000	650,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	650,000	650,000	—
合 計	750,000	650,000	—

(注) 上記のほか、学友会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和4年度、単位：円)

歯科衛生士学科 昼間	1年次	2年次	3年次
入学金	100,000	—	—
授業料	640,000	640,000	640,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	100,000	100,000	100,000
合 計	1,040,000	940,000	940,000
歯科衛生士学科 夜間	1年次	2年次	3年次
入学金	50,000	—	—
授業料	590,000	590,000	590,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	80,000	80,000	80,000
合 計	920,000	870,000	870,000

(注) 上記のほか、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和4年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	270,000	270,000	270,000	—
合 計	1,640,000	1,390,000	1,390,000	—
理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	920,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	230,000	230,000	230,000	230,000
合 計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
柔道整復学科・はり・きゅう学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	200,000	200,000	200,000	—
合 計	1,520,000	1,270,000	1,270,000	—
アスレティックトレーナー学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	150,000	—	—	—
授業料	620,000	620,000	—	—
施設・設備費	150,000	150,000	—	—
実習費	250,000	290,000	—	—
合 計	1,170,000	1,060,000	—	—

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、学校行事・健康管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和4年度、単位：円)

柔道整復師科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	800,000	800,000	800,000
施設管理費	100,000	100,000	100,000
実技実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,300,000	1,100,000	1,100,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和4年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次
入学金	400,000	—	—
授業料	360,000	360,000	360,000
施設管理費	500,000	0	0
実技実習費※	180,000	180,000	180,000
合 計	1,440,000	540,000	540,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

※令和4年度から募集停止。

6 卒業及び就職等の状況

(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
理学療法学科	73	46	3	0	24
柔道整復学科	52	41	5	0	6
鍼灸学科	19	14	1	2	2
合 計	144	101	9	2	32

(令和4年5月1日現在、単位：名)

別科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
留学生別科(大阪豊崎キャンパス)	6	0	1	5	0
留学生別科(東京キャンパス)	3	0	1	2	0
介護福祉別科	21	20	0	1	0
合 計	30	20	2	8	0

◆ 平成医療学園専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	32	25	0	2	5
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	9	9	0	0	0
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	25	20	0	2	3
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	11	6	0	1	4
東洋療法教員養成学科	2	2	0	0	0
日本語学科 日本語1年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 医療福祉系1年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 進学1.5年コース	82	0	0	68	14
日本語学科 進学2年コース	0	0	0	0	0
応用日本語学科 1年コース	13	0	0	12	1
応用日本語学科 2年コース	10	0	0	8	2
合 計	184	62	0	93	29

◆ 横浜医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間	39	32	3	0	4
柔道整復師科 夜間	20	9	4	4	3
鍼灸師科 昼間	36	30	3	0	3
鍼灸師科 夜間	11	7	1	0	3
日本語学科 進学1.5年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 進学2年コース	0	0	0	0	0
合 計	106	78	11	4	13

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間	79	55	0	0	24
歯科衛生士学科 夜間	38	24	0	0	14
合 計	117	79	0	0	38

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	27	26	0	0	1
理学療法学科	—	—	—	—	—
柔道整復学科 昼間	—	—	—	—	—
はり・きゅう学科 昼間	4	4	0	0	0
アスレティックトレーナー学科	8	2	1	5	0
合 計	39	32	1	5	1

◆ 日本総合医療専門学校

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	20	17	0	1	2
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIIコース	12	11	0	0	1
合 計	32	28	0	1	3

◆ 和歌山看護専門学校（旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校）

（令和4年5月1日現在、単位：名）

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	31	31	0	0	0

- 「就職者」とは、「正規の職員・従業員・自営業主等」又は「正規の職員ではない者のうち雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者」をいう。
- 在学中既に職に就いている者で、卒業後も引き続きその職にある場合は「就職者」に含める。
- 「就職者数（関係分野）」とは、卒業者が当該大学・専門学校に在学した学科の専門分野と同等又は関連のある分野の職業に就いた場合をいう。
- 「就職者数（その他分野）」とは、上記「就職者数（関係分野）」以外で、当該大学・専門学校で履修した学科とは直接関係のない分野に就職した者をいう。

(2) 主な就職先

◆ 宝塚医療大学

（令和4年5月1日現在）

学科	主な就職先
理学療法学科	株式会社ADESSO、豊中平成病院、社会医療法人渡邊高記念会、フェニックス加古川記念病院、医療法人弘正会 西京都病院、DPT株式会社、株式会社アクティブ アクティブ訪問看護ステーション、栗本整形外科、愛壽記念病院、社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院、医療法人ラポール会 青山病院、わかくさ竜間リハビリテーション病院、医療法人社団蘇生会総合病院、武田病院グループ 武田総合病院、独立行政法人国立病院機構 宇多野病院、洛和会ヘルスケアシステム、（大阪）法務局（刑務官）、医療法人社団亀井整形外科医院、明石リハビリテーション病院、西江井島病院、医療法人晴風園 今井病院、城山病院、一般財団法人 住友病院、医療法人社団 十善会 野瀬病院、なじお山下整形、京都下鴨病院、合資会社ケア・スタッフサービス、医療法人篤友会 関西リハビリテーション病院、医療法人社団松本会 松本病院、医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院、社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会泉尾病院、独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院、マックシール巽病院、常岡病院、啜生会脳神経外科病院、医療法人晴風園 伊丹せいふう病院、社会福祉法人大阪暁明館 大阪暁明館病院、独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院、社会医療法人 明生会、新須磨リハビリテーション病院、加納総合病院、社会医療法人社団正峰会 神戸大山病院、独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院、社会医療法人行岡医学研究所 行岡病院

<p>柔道整復学科</p>	<p>だいち鍼灸整骨院、株式会社フューチャーシップ、株式会社GOOD JOINT、ランポーレ三重、株式会社住地ゴルフ、山岡整骨院、株式会社リーデン、株式会社わだちグループ、千里三浦整骨院、株式会社サンキュー、株式会社コンディショニングラボ、芳樹会 鍼灸・整骨院グループ、社会福祉法人 すみれ福祉会、株式会社LoopQuest、医療法人ポイントワン ならやまと整形外科スポーツクリニック、中田接骨院、株式会社ツクイ、iCureテクノロジー株式会社、株式会社アウトソーシングテクノロジー、有限会社スマイルストーリー、サンライズ鍼灸整骨院、だるま鍼灸整骨院、ごとう歯科クリニック、宝塚医療大学、A.T.長島治療院、マンパワーグループ株式会社、FMG北斗整骨院、EMPOWERMENT株式会社 平川接骨院、三木産業株式会社、兵庫県立高砂南高等学校、Care Labo、なかのう鍼灸接骨院</p>
<p>鍼灸学科</p>	<p>朝来市立生野中学校、作田針灸整骨院、日本セラピー株式会社、株式会社夢現、"株式会社SYNERGY JAPAN プラス鍼灸整骨院、株式会社EXPAND 坂口鍼灸整骨院、くまのみ鍼灸接骨院、りゅうた整骨院・鍼灸院、すずらん鍼灸整骨院、大龍江中国医学センター、介護施設で社会福祉法人慈仁会 特別養護老人ホーム山口苑、剛鍼灸治療院、株式会社爽健グローバル、株式会社わだちグループ</p>

7 国家試験の受験状況

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
理学療法士国家試験	72	48	66.7%	88.1%
柔道整復師国家試験	38	34	89.5%	81.0%
はり師国家試験	16	16	100.0%	90.3%
きゆう師国家試験	16	16	100.0%	91.4%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	41	38	92.7%	81.0%
はり師国家試験	36	36	100.0%	90.3%
きゆう師国家試験	36	36	100.0%	91.4%

◆ 横浜医療専門学校

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	56	47	83.9%	81.0%
はり師国家試験	33	30	90.9%	90.3%
きゆう師国家試験	33	30	90.9%	91.4%

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	116	111	95.7%	97.4%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	26	22	85.0%	96.5%
理学療法士国家試験	—	—	—	—
柔道整復師国家試験	—	—	—	—
はり師国家試験	4	4	100%	90.3%
きゆう師国家試験	4	4	100%	91.4%

◆ 日本総合医療専門学校

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	31	23	74.2%	81.0%

◆ 和歌山看護専門学校 (旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校)

(令和3年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	31	29	93.5%	96.5%

8 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率

(1) 退学者数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度、単位：名)

学科	退学者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	3	11	5	0	19
柔道整復学科	6	7	3	3	19
鍼灸学科	7	3	0	1	11
保健医療学部	16	21	8	4	49
リハビリテーション学科	6	3	0	0	9
和歌山保健医療学部	6	3	0	0	9
合計	22	24	8	4	58

(2) 除籍者数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度、単位：名)

学科	除籍者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	0	0	0	0
柔道整復学科	1	0	0	0	1
鍼灸学科	0	1	1	0	2
保健医療学部	1	1	1	0	3
リハビリテーション学科	1	0	0	0	1
和歌山保健医療学部	1	0	0	0	1
合計	2	1	1	0	4

(3) 留年者数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度、単位：名)

学科	留年者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	7	15	4	26
柔道整復学科	0	2	0	3	5
鍼灸学科	0	2	2	1	5
保健医療学部	0	11	17	8	36
リハビリテーション学科	2	4	—	—	6
和歌山保健医療学部	2	4	—	—	6
合計	2	15	17	8	42

(4) 中退率

◆ 宝塚医療大学

(令和3年中の退学・除籍者数／令和3年5月1日現在の在籍者数)

学科	中退率			
	1年	2年	3年	4年
理学療法学科	4.3%	16.7%	7.4%	0.0%
柔道整復学科	9.3%	9.9%	5.4%	5.2%
鍼灸学科	25.9%	12.9%	3.8%	4.8%
保健医療学部	9.9%	12.9%	6.0%	2.6%
リハビリテーション学科	6.9%	3.0%	—	—
和歌山保健医療学部	6.9%	3.0%	—	—
合 計	8.8%	9.3%	6.0%	2.6%

9 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数

(1) 社会人学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	社会人学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	2
保健医療学部 小計	2
リハビリテーション学科	3
看護学科	1
和歌山保健医療学部 小計	4
合 計	6

(注)「社会人」とは、職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者をいう。また、企業等を退職した者及び主婦等も含む。

(2) 留学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年5月1日現在、単位：名)

学科	留学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
保健医療学部 小計	0
リハビリテーション学科	0
看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	0

(3) 海外派遣学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度、単位：名)

学科	海外派遣学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
保健医療学部 小計	0
リハビリテーション学科	0
看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	0

Ⅲ．財務の概要

1 学校法人会計基準

◆ 学校法人とは

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます（私立学校法第3条）。学校法人は、学校法人会計基準で定めるところに従って会計処理を行い、計算書類を作成しなければならないとされています。

◆ 学校法人会計基準の特徴

学校法人は、一般の企業のように利益の追求を目的とするものではありません。学校法人は、教育研究活動を目的としていますが、収入と支出のバランスが取れなければ学校運営を維持することはできません。そのため、学校法人会計の目的は、設置運営する大学等の永続的維持、発展と教育研究活動の円滑な遂行です。同時に、経常費補助金に係る予算の適切な執行が求められます。

学校法人の収入の大半は、自由に増額することが困難な学生生徒等納付金です。また、教育研究活動の維持発展のための支出を削減することが難しい点があります。そこで、学校法人の経営状況及び財政状態を的確に把握するため、学校法人会計基準に基づき計算書類を作成する必要があります。

◆ 学校法人会計と企業会計の違い

企業が利益の追求を目的としているのに対し、学校法人は教育研究活動を目的としています。企業会計が計算書類からその経営成績を知ることが目的であるのに対し、学校法人会計は計算書類によって安定的、継続的に教育研究活動が行われているか否かを知ることが目的です。

学校法人の事業は、基本的に非営利事業です。そのため、収益事業を目的とした一般事業会社のように利益を得ることが目的とはなっていないことから、一定の制限の下に認められる収益事業を除き、企業会計における損益計算は適用されません。

2 各科目の説明

◆ 資金収支計算書の科目（収入の部）

科 目	説 明
学生生徒等納付金収入	教育研究活動の対価としての性質を有し、在学条件として義務的かつ一律に納付させる授業料、実験実習料や、学生生徒等を就学させるに当たって義務的かつ一律に納付させる入学金など。
手数料収入	特定の用役の提供に当たって受益者から徴収する手数料。入学検定料、試験料、証明手数料収入など。
寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないもの。
補助金収入	国又は地方公共団体から交付される助成金。日本私立学校振興・共済事業団やこれに準ずる団体からの助成金を含む。

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入。不動産売却収入、有価証券売却収入など。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入（食堂、売店、寄宿舍等教育活動に付随する活動に係る事業の収入）、附属事業収入（附属機関（病院、研究所等）の事業の収入）、受託事業収入（外部から委託を受けた試験、研究等による収入）、収益事業収入（収益事業会計からの収入）など。
受取利息・配当金収入	その他の受取利息・配当金収入（預金、貸付金等の利息、株式の配当金等）など。
雑収入	学生生徒等納付金収入から事業収入までの各収入に含まれない収入で、固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する収入。
借入金等収入	金融機関等から借り入れた資金。
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの。
その他の収入	学生生徒等納付金収入から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入。積み立ててきた特定資産から繰り入れた収入や、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入など。
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入のうち、資金の収入が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる収入項目に対応する勘定。
前年度繰越支払資金	前年度から繰り越した支払資金。

◆ 資金収支計算書の科目（支出の部）

科 目	説 明
人件費支出	教職員等に支給する人件費。教員人件費支出、職員人件費支出、役員報酬支出、退職金支出など。
教育研究経費支出	教育研究のために支出する経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
管理経費支出	教育研究経費以外の経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出。
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出。
施設関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する土地、建物、構築物、建設仮勘定等、固定して設置する固定資産に係る支出。
設備関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書、車輛等の設備又は電話加入権等の設備の利用に係る権利に係る支出。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による資金支出。
その他の支出	人件費支出から資産運用支出までの各科目に含まれない支出。当年度内に支払義務が確定しているが、年度末に未払いとなったもの（期末未払金）や、当年度に属する経費を前年度以前に前払いしたもの（前期末未払金）など。

資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出のうち、資金の支出が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定。
次年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される支払資金。

◆ 事業活動収支計算書の科目

科 目	説 明
その他の教育活動外収入	収益事業収入、外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差益）など、教育研究活動以外の収入。
その他の教育活動外支出	外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差損）など、教育研究活動以外の支出。
その他の特別収入	施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額。
資産売却差額	学校が持つ不動産、有価証券等の資産を売却した際に生じる売却益。その他、有価証券の時価の著しい下落による有価証券評価損（有価証券評価差額）、有姿除却を行った場合の有姿除却等損失を含む。
その他の特別支出	災害損失、退職給付引当金特別繰入額、デリバティブ取引の解約損。
事業活動収入	学生生徒等納付金や補助金など学校法人の負債とならない収入。従来の「帰属収入」。企業会計の「収益」に当たる。
事業活動支出	年度内で消費する資産の取得価額（減価償却額など）と用役の対価として支出した額（人件費や経費支出など）。従来の「消費支出」。企業会計の「費用」に当たる。

3 財政運営

本学園の財政運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金、経常費補助金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めているところです。本学園の令和3年度の決算は、以下のようになりました。

◆ 事業活動収支計算書の予算対比について

教育活動収支の収入は2,267千円の減となり、内訳は、学生生徒等納付金28,377千円の減、手数料5,801千円の増、寄付金8,000千円の減、経常費等補助金15,821千円の増、付随事業収入687千円の増、雑収入11,801千円の増です。経常費等補助金の増は、主に宝塚医療大学の経常費等補助金収入増によるものです。

教育活動収支の支出は47,605千円の増となり、内訳は、人件費1,716千円の増、教育研究経費37,607千円の増、管理経費7,188千円の増、徴収不能額等1,094千円の増で、教育経費・管理経費ともに光熱水費や報酬委託手数料の増加が主な要因となっており、結果、収支は49,872千円マイナス幅が増加しました。

教育活動外の収入は7,805千円の増で、主な要因は収益事業収入8,350千円の増です。教育活動外の支出は47千円の減となり、結果、収支は7,852千円マイナス幅が縮小しました。

特別収支の収入は7,814千円の増となり、主な要因は現物寄付5,983千円の増です。特別収支の支出は28,559千円の増となり、主な要因は資産処分差額28,606千円の増で、結果、収支は20,746千円の減となりました。

基本金組入前当年度収支差額は62,766千円の減となりました。

基本金につきましては、基本金組入額が3,413,094千円となっています。

◆ 事業活動収支計算書の前年度対比について

教育活動収支の収入は517,291千円の増となり、内訳は、学生生徒等納付金447,632千円の増、手数料10,768千円の増、寄付金65,402千円の減、経常費等補助金94,597千円の増、付随事業収入7,290千円の増、雑収入22,406千円の増です。学生生徒等納付金の増で特に大きな要因は、宝塚医療大学和歌山保健医療学部です。寄付金は特別寄付金6,000千円の減で、一般寄付金が59,282千円の減となっています。経常費等補助金は国庫補助金が78,314千円の増、都道府県補助金が14,253千円の増、その他補助金1,879千円の増となっています。付随事業収入7,290千円増は、主に補助活動収入2,482千円の増、附属事業収入3,709千円の増です。雑収入22,406千円増は、その他の雑収入31,055千円の増が主な要因です。

教育活動収支の支出は739,944千円の増となり、内訳は、人件費227,194千円の増、教育研究経費262,550円の増、管理経費255,658千円の増、徴収不能額等は5,457千円の減で、人件費の内訳は、教員人件費178,705千円の増、職員人件費48,720千円の増、その他の人件費232千円の減です。教育研究経費は報酬委託手数料90,828千円の増や減価償却費64,176千円の増などが特に大きな要因です。管理経費は寄付金221,840千円の増が主な要因です。結果、収支は222,653千円マイナス幅が拡大しました。

教育活動外の収入は763千円の減はその他の受取利息・配当金736千円減が主たる要因です。

教育活動外の支出は5,514千円の増で、主な要因は借入金利息5,703千円の増です。結果、収支は6,277千円のマイナス幅拡大となりました。

経常収支差額については228,930千円マイナス幅が縮小しました。

特別収支の収入は2,637,609千円の増となり、現物寄付2,643,193千円増が主たる要因です。結果、収支は2,563,807千円の増となりました。

基本金組入前当年度収支差額は2,334,876千円の増となりました。

基本金は、昨年度組入額対比2,084,016千円増の3,413,094千円の組入れとなりました。

4

資金収支計算書

(単位：千円)

科目		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,315,916	2,868,284	2,485,154	2,151,570	2,162,188
	手数料収入	46,827	36,059	40,470	30,532	24,125
	寄付金収入	8	65,291	9,264	51,416	29,924
	補助金収入	439,713	343,826	396,543	202,148	270,529
	資産売却収入	317,470	45,200	1,379	0	0
	付随事業・収益事業収入	99,651	92,388	107,121	100,999	71,445
	受取利息・配当金収入	4,485	5,221	5,004	3,406	2,494
	雑収入	75,099	38,112	71,241	39,676	17,377
	借入金等収入	500,000	2,312,400	2,119,700	932,500	400,000
	前受金収入	2,155,387	1,803,013	1,521,574	1,319,029	1,188,381
	その他の収入	1,688,308	1,310,069	605,021	901,545	807,099
	資金収入調整勘定	△ 2,152,333	△ 1,612,604	△ 1,548,408	△ 1,243,881	△ 1,235,398
	前年度繰越支払資金	2,720,753	1,904,029	2,384,031	2,856,354	2,659,458
	収入の部合計	9,211,284	9,211,288	8,198,094	7,345,294	6,397,622
支出の部	人件費支出	2,167,650	1,940,979	1,646,337	1,340,882	1,289,254
	教育研究経費支出	957,130	760,902	548,996	442,680	405,742
	管理経費支出	1,127,756	872,028	1,051,458	651,252	489,028
	借入金等利息支出	47,585	41,882	36,044	22,791	20,272
	借入金等返済支出	456,070	1,658,597	141,475	136,380	106,277
	施設関係支出	140,248	89,623	2,086,356	1,267,729	315,798
	設備関係支出	73,655	414,763	89,145	80,765	41,578
	資産運用支出	2,899	2,997	3,080	3,912	13,677
	その他の支出	1,856,661	844,268	1,155,240	1,334,022	964,917
	[予備費]	0	0	0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 215,267	△ 135,504	△ 464,066	△ 319,150	△ 105,275
	翌年度繰越支払資金	2,596,897	2,720,753	1,904,029	2,384,031	2,856,354
支出の部合計	9,211,284	9,211,288	8,198,094	7,345,294	6,397,622	

5 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	3,315,916	2,868,284	2,485,154	2,151,570	2,162,188
		手数料	46,827	36,059	40,470	30,531	24,125
		寄付金	75	65,477	10,113	18,416	29,924
		経常費等補助金	438,222	343,626	196,543	202,148	175,913
		付随事業収入	91,301	84,010	97,310	90,923	61,282
		雑収入	74,318	51,912	69,741	39,676	17,377
		教育活動収入計	3,966,659	3,449,368	2,899,331	2,533,264	2,470,809
	支出の部	人件費	2,176,006	1,948,813	1,653,708	1,338,667	1,293,624
		教育研究経費	1,354,778	1,092,228	773,796	619,001	569,993
		管理経費	1,194,239	938,580	1,098,243	674,698	505,716
		徴収不能額等	2,094	7,552	6,090	87,323	82,193
教育活動支出計		4,727,117	3,987,173	3,531,837	2,719,689	2,451,526	
教育活動収支差額		△ 760,458	△ 537,805	△ 632,506	△ 186,425	19,283	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	4,485	5,221	5,004	3,406	2,494
		雑収入	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	8,350	8,377	9,811	10,076	10,164
		教育活動外収入計	12,835	13,598	14,815	13,482	12,658
	支出の部	借入金等利息	47,585	41,882	36,044	22,791	20,272
		その他の教育活動外支出	1,148	1,336	1,295	0	0
		教育活動外支出計	48,733	43,218	37,339	22,791	20,272
教育活動外収支差額		△ 35,898	△ 29,620	△ 22,524	△ 9,309	△ 7,614	
経常収支差額		△ 796,356	△ 567,425	△ 655,030	△ 195,734	11,669	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	200	870	0	0
		その他の特別収入	3,437,960	800,150	2,567,581	36,390	96,158
		特別収入計	3,437,960	800,350	2,568,451	36,390	96,158
	支出の部	資産処分差額	80,296	7,497	326	2,439	8,853
		その他の特別支出	1,994	990	1040	990	990
		特別支出計	82,290	8,487	1,366	3,429	9,843
特別収支差額		3,355,670	791,863	2,567,085	32,961	86,315	
[予備費]		0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		2,559,314	224,438	1,912,055	△ 162,773	97,984	
基本金組入額合計		△ 3,413,094	△ 1,329,078	△ 2,721,743	△ 477,428	△ 405,970	
当年度収支差額		△ 853,780	△ 1,104,640	△ 809,688	△ 640,201	△ 307,986	
前年度繰越収支差額		△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596	181,605	489,591	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 3,226,704	△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596	181,605	

(参考)

事業活動収入計	7,417,454	4,263,316	5,482,597	2,583,136	2,579,625
事業活動支出計	4,858,140	4,038,878	3,570,542	2,745,909	2,481,641

6 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部					
科目	令和3年度末	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末
固定資産	16,111,011	13,320,726	12,720,311	8,193,765	6,811,407
有形固定資産	15,296,643	12,488,606	11,402,445	7,127,703	6,013,395
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	814,368	832,120	1,317,866	1,066,062	798,012
流動資産	3,044,624	2,834,002	2,299,573	2,581,271	2,975,191
資産の部合計	19,155,635	16,154,728	15,019,884	10,775,036	9,786,598
負債の部					
科目	令和3年度末	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末
固定負債	4,983,601	5,158,102	4,596,016	2,368,352	1,577,430
流動負債	2,853,224	2,237,130	1,888,810	1,783,682	1,423,393
負債の部合計	7,836,825	7,395,232	6,484,826	4,152,034	3,000,823
純資産の部					
科目	令和3年度末	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末
基本金	14,545,514	11,132,420	9,803,342	7,081,598	6,604,170
第1号基本金	14,273,157	10,860,063	9,599,469	6,915,356	6,437,928
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	272,357	272,357	203,873	166,242	166,242
繰越収支差額	△3,226,704	△2,372,924	1,268,284	△458,596	181,605
純資産の部合計	11,318,810	8,759,496	8,535,058	6,623,002	6,785,775
負債及び純資産の部合計	19,155,635	16,154,728	15,019,884	10,775,036	9,786,598

7 基本金

基本金の種類は、以下の4つに分類されています。

① 第1号基本金

学校法人が設立当初に取得した固定資産の価額又は新たな学校の設置や既設の学校の規模の拡大、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額

② 第2号基本金

将来の固定資産の取得に充てるために、事前に計画的・段階的に積み立てる金銭等の資産の額

③ 第3号基本金

奨学基金、研究基金等の基金として継続的に保持・運用する金銭等の資産の額

④ 第4号基本金

恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣が定める額

令和3年度（令和4年3月31日決算）は、第1号基本金が下記のとおり組み入れられました。

（単位：千円）

第1号基本金（今年度増減）	
土地	1,356,569
建物	1,818,125
構築物	8,523
教育研究機器備品	65,500
管理用機器備品	4,341
図書	3,249
ソフトウェア	109
借入金返済に伴う組入高	118,260
未払金支払による組入高	38,418
合計	3,413,094

基本金	
前期繰越高	11,132,420
第1号基本金	10,860,063
第4号基本金	272,357
当期組入高	3,413,094
第1号基本金	3,413,094
第4号基本金	0
当期末残高	14,545,514
第1号基本金	14,273,157
第4号基本金	272,357

8 財産目録

(単位：千円)

科目	令和3年度末	
一 資産額		
(一) 基本財産	15,296,643	
1 土地		
(1) 宝塚医療大学 校地	48,715.00 m ²	452,000
(2) 平成医療学園専門学校 第一校舎校地	582.70 m ²	98,403
(3) 平成医療学園専門学校 第二校舎校地	663.19 m ²	228,219
(4) なにわ歯科衛生専門学校 校地	474.99 m ²	282,720
(5) 横浜医療専門学校 校地	910.18 m ²	526,920
(6) 法人本部倉庫	93.24 m ²	39,026
(7) 平成医療学園専門学校 校地用地	780.27 m ²	445,274
(8) 名古屋平成看護医療専門学校 校地	1,365.32 m ²	1,527,200
(9) 名古屋平成看護医療専門学校 駐車場用地	143.73 m ²	36,167
(10) 日本総合医療専門学校	642.13 m ²	436,200
(11) 宝塚医療大学 荒川校舎校地	1,016.20 m ²	1,356,570
計	55,386.95 m ²	5,428,699
2 建物		
(1) 宝塚医療大学 校舎 設計費	4,759.97 m ²	679,096
(2) 宝塚医療大学 講義室棟	4,439.63 m ²	460,207
(3) 宝塚医療大学 屋内体育施設	1,504.44 m ²	169,100
(4) 宝塚医療大学 学生棟	1,305.58 m ²	170,128
(5) 宝塚医療大学 守衛室	8.41 m ²	3,660
(6) 宝塚医療大学 部室棟	238.48 m ²	34,578
(7) 平成保育園	-	33,456
(8) 宝塚附属保育園	-	102,807
(9) 看板	-	0
(10) 平成医療学園専門学校 第一校舎	1,709.51 m ²	221,948
(11) 平成医療学園専門学校 第二校舎	2,002.50 m ²	431,883
(12) なにわ歯科衛生専門学校 校舎	2,438.25 m ²	372,322
(13) 横浜医療専門学校 校舎	4,830.02 m ²	822,070
(14) 平成医療学園 事務所・共同住宅	1,395.20 m ²	263,721
(15) 豊崎倉庫	144.81 m ²	2,601
(16) 中津三丁目 事務所	116.75 m ²	26,308
(17) 宝塚医療大学 豊崎校舎 改修工事	0.00 m ²	35,632
(18) 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 校舎	6,467.55 m ²	2,191,371
(19) 尼崎保健医療学部口腔保健学科設置準備室 事務所	5,225.84 m ²	127,935
(20) 名古屋平成看護医療専門学校 校舎	7,846.55 m ²	578,356
(21) 日本総合医療専門学校 校舎	1,570.75 m ²	152,880
(22) 和歌山看護専門学校 校舎	3,339.96 m ²	343,778
(23) 野田クリニック 7階	-	8,197
(24) 宝塚医療大学 荒川校舎校地	7,322.37 m ²	1,617,882

(25) 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部看護学科研究棟	489.70 m ²	124,168
計	57,156.27 m ²	8,974,084
3 構築物		172,355
4 図書	-	269,594
5 教具・教育研究用機器備品・管理用機器備品	-	432,915
6 機械装置		1
7 車輛		6,576
8 建設仮勘定		12,419
(二) 運用財産		3,858,993
1 預金・現金		2,596,897
(1) 現金		7,739
(2) 普通預金		2,124,121
(3) 定期預金		465,037
2 有価証券(流動)		0
3 短期貸付金・立替金・預け金		36,818
4 不動産		0
5 貯蔵品		11,748
6 未収金		365,443
7 前払金		33,718
8 ソフトウェア		5,553
9 保証金・敷金		86,571
10 有価証券		151,766
11 収益事業元入金 (=収益事業用財産)		317,371
12 長期貸付金		218,360
13 保険積立金		34,628
14 出資金		86
15 預託金		34
合計		19,155,636
二 負債額		
1 固定負債		4,983,601
(1) 長期借入金		4,640,225
(2) 退職給与引当金		111,761
(3) 長期未払金		230,665
(4) 長期預り金		950
2 流動負債		2,853,224
(1) 短期借入金		455,860
(2) 前受金		2,187,447
(3) 未払金		165,201
(4) 預り金		44,716
合計		7,836,825
三 借用財産		
1 土地	22,382.82 m ²	年額賃料 25,873
2 建物	1,827.03 m ²	年額賃料 27,673
合計	24,209.85 m²	

収益事業用財産			
1 (1) 事業用敷地	大阪市福島区吉野 1-9-18	147.12 m ²	88,272
	大阪市北区中津 3-34-1	347.38 m ²	170,000
	(小計)	494.50 m ²	258,272
(2) 事業用建物		765.28 m ²	66,464
(3) 事業用構築物			5,637
2 預金			100
3 前払費用			348
資産の部合計			330,821
4 (1) 未払金			14
(2) 未払法人税			1,106
(3) 未払消費税			829
(3) 前受金			1,600
(4) 預り保証金			9,582
負債の部合計			13,131
5 収益事業用財産 (元入金)			317,371
6 利益剰余金			319
純資産の部合計			317,690

9 主な財務比率

比率名	算式 (×100)	評価	比率
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	54.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	低い方が良い	65.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	34.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	30.0%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	1.2%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	34.5%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	低い方が良い	121.8%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	どちらとも いえない	83.3%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	46.3%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	0.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	5.9%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	11.0%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	46.0%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	どちらとも いえない	9.3%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	-20.0%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	高い方が良い	-19.2%

(注1) 「経常収入」 = 「教育活動収入計」 + 「教育活動外収入計」

(注2) 「経常支出」 = 「教育活動支出計」 + 「教育活動外支出計」

(注3) 「経常収支差額」 = 「経常収入」 - 「経常支出」

(注4) 寄付金比率の「寄付金」には特別収支の「施設設備寄付金」及び「現物寄付」を含む。

(注5) 補助金比率の「補助金」には特別収支の「施設設備補助金」を含む。